金沢城史料叢書 44 石川県金沢城調査研究所設立 20 周年記念

## 金沢城出土品図録

# ーモノからみた金沢城ー



#### はじめに

金沢城跡の発掘調査は、昭和43・44年(1968・69)、金沢大学が組織した、金沢城 学術調査委員会を中心に行われたのが始まりです。その後、金沢大学考古学研究室に よる大学敷地内の調査、石川県立埋蔵文化財センターによる道路整備にかかる調査を 経て、平成9年度(1997)には、石川県が進める金沢城公園整備事業にともなう発掘 調査が始まりました。

平成14年度(2002)からは、金沢城研究調査室(平成19年度(2007)に金沢城調査研究所に改組)が主体となり、金沢城の学術的価値を一層明らかにするため、本丸などの確認調査にも取り組んできました。この間、瓦や陶磁器をはじめ、木製品、金属製品、石製品など多種多様な遺物が出土しています。

石川県金沢城調査研究所の設立20周年の節目に際し、これまで出土した代表的な遺物を取り上げ、金沢城・城下町の形成、城の建築と土木、生活や勤務などとの関わりを軸に、その特徴を解説する「金沢城出土品図録ーモノでみる金沢城ー」を刊行することとしました。本図録が、金沢城の魅力を一層引き出す一助となれば幸いです。

石川県金沢城調査研究所



史跡金沢城跡全景

#### 例 言

- 1 本書は、金沢城調査研究事業の一環である金沢城資料集成事業の成果をもとに、代表的な金沢城 跡出土品についてカラー写真図版で紹介したもので、金沢城調査研究所設立 20 周年記念事業のひ とつとして刊行した。
- 2 本書の作成は、滝川重徳(担当課長)、荒木麻理子(調査研究専門員)が担当し、笠松一美(非常 勤職員)が補助した。
- 3 掲載資料のうち、所蔵の記載のないものは、石川県金沢城調査研究所で保管している。
- 4 出土品の掲載報告書等文献・掲載番号・寸法等については、巻末の表・参考文献に示した。
- 5 本書の作成に関し、以下の機関・個人から協力を賜った(敬称略)。 金沢市立玉川図書館 金沢大学資料館 公益財団法人石川県埋蔵文化財センター 横山隆昭

## 目 次

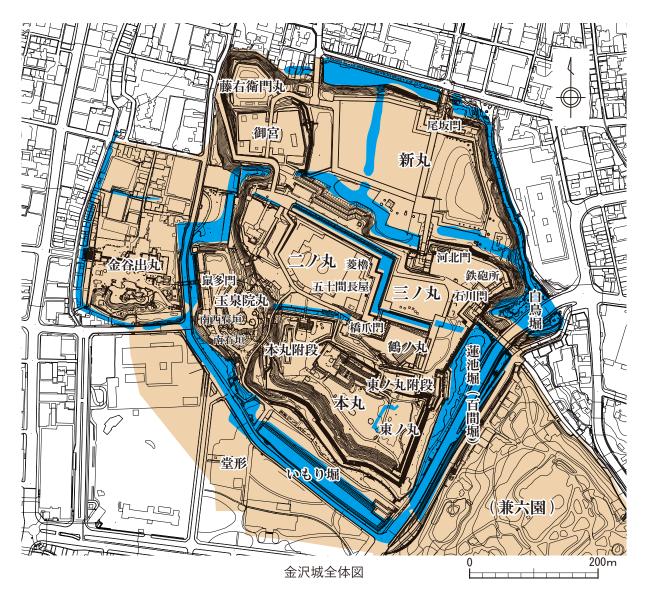
は	じ	め	に

例言

目次

金沢城全体図、主要調査地点一覧

金沢城・城下町形成前史 ――――――――――――――――――――――――――――――――――――	5
寺院(墓地)から寺内町・城下町へ ――――――	6
城普請とモノー建築・土木関係の出土品- ―――――	11
瓦 ————————————————————————————————————	19
建築部材と工具・金具 ――――――	55
石垣普請の工具・金具 ―――――――――――――――――――――――――――――――――――	60
作事・普請と祈り―――――	63
城の暮らし・勤めとモノー生活・勤務に関する出土品 - ――	<del></del> 67
城内の暮らし-御殿と武家屋敷の出土品-	<del></del> 72
城内の勤め-役所などの出土品- ―――――	85
御城中壱分碁絵図、金沢城略年表 ————————————————————————————————————	95
掲載資料一覧 ————————————————————————————————————	96
参考文献 ————————————————————————————————————	99



主要調査地点一覧

地点	調査主体	事業	調査年度	
新丸	(財) 県埋蔵文化財センター	公園整備	1999,2000	
御宮・藤右衛門丸	(財) 県埋蔵文化財センター	公園整備	2000	
玉泉院丸南西石垣	金沢城研究調査室・調査研究所	公園整備	2005-07	
玉泉院丸庭園	金沢城調査研究所	公園整備	2008-12	
玉泉院丸南石垣	金沢城調査研究所	公園整備	2013	
鼠多門・鼠多門橋	門橋 金沢城調査研究所		2014-18	
鉄砲所	(財) 県埋蔵文化財センター	公園整備	1998	
河北門	(財) 県埋蔵文化財センター	公園整備	2000	
	金沢城研究調査室・調査研究所	公園整備	2006-08	
二ノ丸	金沢城学術調査委員会	学術調査等	1968-69	
	県立埋蔵文化財センター・	公園整備	1997-99	
	(財) 県埋蔵文化財センター	乙图证师	1991-99	
	金沢城調査研究所	公園整備	2020-	
本丸・本丸附段等	金沢城研究調査室・調査研究所	調査研究	2002-08, 14	
いもり堀	(財) 県埋蔵文化財センター	公園整備	1998,2000	
	金沢城研究調査室・調査研究所	公園整備	2003-04, 06-09	
蓮池堀・白鳥堀	県立埋蔵文化財センター	道路整備	1992-94	
堂形	(財) 県埋蔵文化財センター	都心地区整備	2003-04, 07-08, 12	

## 金沢城・城下町形成前史

#### 解 説 -

#### ■ 寺院(墓地)から寺内町・城下町へ

金沢城は、天文 15 年 (1546) に創建された 一向一揆・本願寺勢力の拠点、金沢御堂(金 沢御坊・尾山御坊)を前身とし、天正 8 年 (1580) に金沢御堂を攻略した織田信長の家臣 佐久間盛政により築城されたと伝わる。同 11 年 (1583) には前田利家が入城し、以後、明 治初年に至るまで、加賀・能登・越中三か国 にまたがる領国を形成した、加賀藩前田氏の 本城だった。

城内の発掘調査では、城郭形成以前の状況 は断片的にしか分かっていない。とくに、金 沢御堂の主要部と推定される本丸一帯では、 その時代に遡る明確な遺構は未検出である。 これは、発掘範囲が小面積であることに加え、 佐久間氏・前田氏の城郭整備により改変を受 けたためとも考えられる。

その一方、本丸に伝わる石塔の塔身や御宮などで出土した宝塔などの部材 [文 38・47・48]は、金沢御堂をさらにさかのぼる寺院・墓地の存在をうかがわせる。御宮の北に隣接する城域北端の藤右衛門丸では、下部の造成土に火葬骨が混在し、最下層の地山面では火葬



新丸から御宮・藤右衛門丸を望む



新丸第2次調査区 [文22]

に関連するとみられる遺構が見つかっている。

また、新丸・白鳥堀下層では、寺内町から 初期金沢城下町にかけての町屋や金属加工に 関連する遺構・遺物が見つかっている。中国 磁器や国産の瀬戸・美濃陶器を主体とする陶 磁器群は、当時の暮らしの一端を示すととも に、戦国期から近世初期の年代の指標として も重要である。鞴の羽口や取鍋は、鍛冶や鋳 物を行う際の部材や道具である。銅や鉄の素 材などとともに、発展期の都市の活況を示唆 している。

町屋や金属加工工房は、1600 年頃を境に、 城の中に取り込まれた。これら遺構と遺物は、 金沢城下町の形成と連動して進められた金沢 城の拡張を考える上で、重要な資料である。



白鳥堀調査区下層遺構面出土陶磁器

## 寺院(墓地)から寺内町・城下町へ

#### 石塔と火葬骨 -

城内各所の発掘調査で、仏塔(五輪塔、宝塔)など信仰に関連した石造物が廃棄されているのを確認した。



1. 石造物 金沢大学資料館蔵(写真提供:金沢大学資料館) 本丸、御宮 中世の石造物で、石材はいずれも凝灰岩である。金沢御堂以前 の寺院や墓地の存在が想定される。



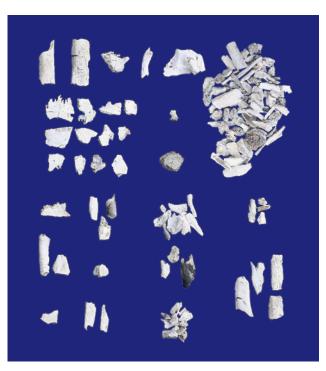
3. 石造物 菱櫓 五輪塔の水輪。火山礫凝灰岩製で、側面の枘状 の孔の存在から、灯籠の火袋等への転用を目的 に再加工される途中で廃棄されたとみられる。



2. 石造物 本丸附段 宝塔等の相輪請花部分であろう。 被熱していて、割れ口に溶融鉛が 付着している。

藤右衛門丸では、整地土や土坑から灰や炭化物、焼けた人骨が出土しており、郭を造成する以前の 火葬施設に関連すると考えられる。

出土人骨について、部位の同定とその特徴についての分析を行ったところ、「軟部が付着した状態で、800度以上の高温で焼かれたと思われる」との所見を得ており、そのことも火葬関連遺構の存在を示すものと考えられる。



4. 藤右衛門丸下層出土火葬骨 藤右衛門丸 同定した部位には、頭蓋骨、肩甲骨、上腕骨、 舟状骨、末節骨、大腿骨、脛骨などがある。



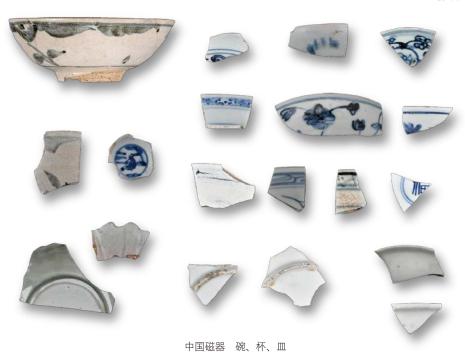
荼毘遺構

#### 新丸・白鳥堀下層の遺物一

新丸尾坂門付近や白鳥堀下層の調査では、城に取り込まれる以前の屋敷の区画や鍛冶関連遺構を確認し、陶磁器や金属加工関連遺物が出土した。出土陶磁器の組成は、九州の肥前地方(佐賀・長崎県)で生産された肥前陶器(唐津焼)が流行しはじめる17世紀初頭より古い様相を示し、中国磁器や瀬戸・美濃陶器が主体となっている。



朝鮮陶器 瓶、碗



5. 新丸下層出土陶磁器 新丸 中国磁器や瀬戸・美濃陶器が主体となっている。



瀬戸・美濃陶器



中国磁器

# 6. 白鳥堀下層出土陶磁器 白鳥堀

輸入陶磁器は中国磁器が主体で、 瀬戸・美濃陶器は天目茶碗や茶入 などの茶陶の占める割合が高い。



鞴羽口



鉄滓

### 7. 金属加工関連遺物

新丸・白鳥堀下層

鉄滓は鉄製品を製作した際に生じた不純物の塊。 取鍋は溶かした金属を入れ、鋳型に流し込む容器 で、白鳥堀下層出土のものには把手が見られた。 鞴は火炉に風を送る装置で、羽口は送風管となる 筒状の土製品である。

## 城普請とモノ一建築・土木関係の出土品一

#### 解説-

#### ■ 普請と作事

近世城郭の造営に際しては、自然地形を生かしつつ、削平や造成といった大規模な土木工事(普請)によって曲輪や堀・石垣などがつくられ、さらにこれらを基盤に、天守や御殿、櫓や門、役所など多くの建築物が建設された(作事)。

金沢城では天正 14 年 (1586) に天守が創建 されており、この時点ですでに城郭としての 威容はいったんは整ったとみられるが、文禄 元年 (1592) から本丸・東ノ丸の石垣構築が 開始されるなど、城づくりは止むことなく継 続された。

元和6年(1620)の本丸火災、城下も含め



東ノ丸北(丑寅櫓下)石垣



石川門

て被災した寛永8年の大火(1631)を経て、金沢城は二ノ丸の御殿空間を中心とした構造に変容した。寛永以後は、城郭の形状を大きく変える普請は行われなくなったが、石垣の修築については、寛文(1661~73)・宝暦~安永(1751~81)・享和~文化(1801~18)等、近世を通じて行われた。また作事については、宝暦9年(1759)の大火・文化5年(1808)の二ノ丸火災後の再建など、御殿を主とした増築・改築が頻繁に行われた。

現在金沢城内に残る石川門・三十間長屋・ 金沢城土蔵(鶴丸倉庫)は、いずれも近世後 期に再建されたものである。

ここでは、これら建築や土木工事に関する出土品を紹介する。

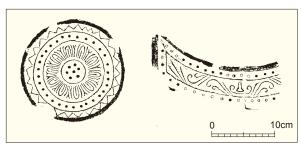
#### ■ 瓦一近世城郭の象徴ー

#### 【金沢城瓦の出現まで】

出土した建築部材のなかで、大多数を占めるのは瓦である。

瓦は、古代においては主に寺院や官衙施設 に用いられた。金沢付近では、市域北東の観 法寺窯跡群や同南東の末窯跡群で、7世紀後 半~8世紀代の製品の生産が確認されている。

後の城下中心部に相当する広坂遺跡では、これらの生産地から供給された瓦が出土して



広坂遺跡出土軒丸瓦・軒平瓦

金沢市(金沢市埋蔵文化財センター)2005 『石川県金沢市広坂遺跡(1丁目)II(古代・中世編、測量図編2)』 第105 図 56・第114 図 138 を転載 おり、当地に寺院(広坂廃寺)が営まれたと 考えられている。しかし古代瓦の系譜は、加賀・ 能登一帯を含め[文 37]、11世紀代に途絶え てしまう。

中世においても、能登北部の南黒丸遺跡でわずかに 14世紀頃の事例が知られる他 [文 24]、出土資料に乏しく、瓦生産は低調であった。

この状況は、16世紀末期に至って一変する。 織田信長・豊臣秀吉を頂点とする織豊政権の 形成とともに、全国的に、石垣、礎石建物、 それに瓦を備えた城郭が発達していった。金 沢城もまた織豊系城郭として整備され、その 重要な要素として、主要な建物の屋根を瓦が 飾ったのである。

#### 【材質】

瓦の材質は、出土事例としては粘土製(焼き物)が大多数で、その他に石製・金属製がある。



燻瓦出土状況 (本丸附段 2004-01SK11) [ 文 2]



燻瓦出土状況 (東ノ丸附段 2002-7 地点) [ 文 2]

粘土瓦は、古代・中世以来一般的な、素焼き製品を煙で燻し炭素を吸着させた燻瓦と、それよりも硬質な陶器瓦に大別される。燻瓦には金箔が貼られた金箔瓦が含まれる。金沢城出土の陶器瓦は、赤褐色~黒褐色の釉薬ないし鉄分を多く含む土を薄めた水溶液が塗布されている(釉薬瓦・越前赤瓦)。

石瓦は、越前(現・福井県)地域に産出する凝灰岩・笏谷石から作られたものである。 燻瓦に比べて、全体に重厚・長大な作りである。 福井県坂井市丸岡城の天守や福井城下町等、 越前国内での使用・出土は多く知られているが、越前以外での流通は顕著ではなく、金沢 城は希少な事例に属する。ただし出土地点は 北西部の御宮や南側の外堀(いもり堀)を越 えた堂形などに限定され、全体量は少ない。

金属瓦には、鉛瓦と銅瓦がある。粘土瓦や 石瓦とは異なり、木製の下地に金属板を被せ



釉薬瓦出土状況(玉泉院丸南西石垣)[文29]



石瓦出土状況(御宮 NS2 区)[文 14]

て瓦屋根状に仕立てたものである。鉛瓦は、 現存する石川門や三十間長屋に葺かれており、 海鼠壁等とともに金沢城の特徴的な建物景観 を形成している。ただし出土事例は少ない。 金属瓦は損傷しても容易に廃棄されることは なく、回収して再利用されるためである。

銅瓦については、近世後期の文献史料によると、御殿の格式の高い主要部に用いられており、最高級の屋根葺材だったことが明らかである。しかし、現在までのところそれと認識できる確実な出土資料は確認されていない。

このように金沢城では、多様な材質の瓦が、 流行時期や使用箇所に違いを持ちつつ存在し ていた。なお屋根材としては、他に杮葺や檜 皮葺など、植物質素材を用いたものがある。

#### 【形状・種類】

16世紀末期から18世紀代まで、屋根瓦は軒丸瓦・軒平瓦・丸瓦・平瓦等で構成される本瓦葺(本葺)であった。19世紀代に入ると二ノ丸御殿等により軽量な桟瓦が採用されたが、土塀や土蔵等、引き続き本瓦葺が用いられた箇所も多かった。なお現存する鉛瓦の大半は本葺である。

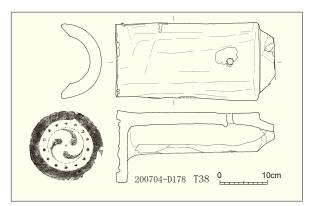
このうち軒丸瓦の瓦当文は、巴文と前田家の家紋である梅鉢文のみが知られている。軒平瓦の文様は、中心飾りの両脇に唐草が配置されるパターンが主体で、中心飾りは桐文・三葉文・花文・半葉文・梅鉢文・巴文等がある。鉛瓦の軒平文様はやや特異で、中心にS字ないし逆S字状の唐草を有する。

軒桟瓦には、軒丸部(小丸)を備えたものと、 これを欠く鎌桟瓦があり、後者の方が多い。 軒平部の文様は、大まかには軒平瓦と同様の 構成で、中心飾りには玉抱文や菊文等がある。

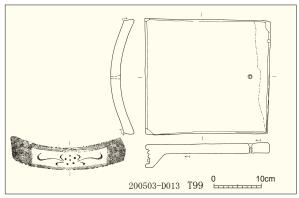
燻瓦は、初期のものほど重厚で、時期が下ると薄手になる傾向がある。とくに丸瓦の裏



本葺(本瓦葺)(石川門・鉛瓦)



軒丸瓦実測図(河北門)[文3]



軒平瓦実測図(玉泉院丸南西石垣)[文29]



桟瓦葺 (石川門右方太鼓塀・釉薬瓦)



腰瓦と海鼠塀(石川門右方太鼓塀)

面(内面)には製作に関わる調整痕が残りや すく、年代の指標となる場合もある。

瓦には上記の種類のほか、鬼瓦・棟瓦・熨斗瓦・面戸瓦・棟込瓦など、様々な種類がある。 なお、燻瓦の一つで、板状の正方形を呈する腰瓦(磚)は、海鼠漆喰と一体となり、金沢城の建物を特徴付ける海鼠塀を構成するものである。

#### 【産地】

築城当初の燻瓦がどこで生産されたのかは 未だ不明である。『三壺聞書』等の文献史料に は、寛永17年(1640)前後に、能美郡の蓮代(台) 寺(現小松市)で瓦が生産されていたことが 記されている。蓮代寺は近世後期には陶器瓦 (釉薬瓦)のほか、再興九谷として陶磁器も作 られた窯業の里である。同じく同市日末にも 窯跡があり、17世紀前半頃の瓦が散布してい る[文44]。これらの製品は、近接する小松城 のほか、金沢城へも供給された。

金沢城の周辺では、城のすぐ南東に連続する小立野台において、土取場の地名が残り、 瓦の原料となる粘土を採取としたとの伝承が ある。また城下北東、卯辰山山麓では、近世 前期のうちに瓦窯が成立していたことが、城 下町絵図からうかがえる。

しかしこれらの生産地と、金沢城出土のど のタイプの瓦が照合するのか、詳細は不明な



城下町絵図にみえる瓦生産地

「金沢之図」(部分、加筆)金沢市立玉川図書館蔵 景観年代:享保(1716~36)頃

ところが多い。

なお腰瓦には「堺」の刻印を有する製品が 一定量出土している。泉州堺 (大阪府堺市) は、 当時全国的な瓦の生産地でもあり、加賀藩で は、越前以外の領外の製品についても導入を 図っていたことがうかがえる。

近世後期では、文化6~7年(1809~10) の二ノ丸御殿再建時の普請記録である『御造 営方日並記』により、先にあげた蓮代寺・卯 辰山や、本吉(能美市)・八幡(小松市)等か ら瓦を導入していることがわかる[文18・19]。

#### 【瓦の年代と変遷】

上記に記した瓦には流行した時期に違いがあり、近世の金沢城の屋根景観は、近世を通じて同一ではなかった。その変遷は5つの時期に大別できる。

#### I―金箔瓦と桐文―

金沢城築城から間もない 16 世紀末~ 17 世 紀初め (1580~ 1620 年頃) の瓦は、燻瓦で構 成され、初期には金箔瓦が用いられていた。 この頃の金箔瓦は、豊臣家との縁の深い武将 の居城等にみられる。いもり堀調査区の下層 や本丸附段等で出土しているほか、土砂に混 入して城外に搬出されたと考えられる、前田 氏(長種系)屋敷跡資料がある[文 23]。出土 事例は少ないが、未確認の天守や主要な門等





燻瓦 桐文軒平瓦

燻瓦 丸瓦裏面 コビキA

に葺かれていたと想定される。

この時期の軒平瓦の瓦当文は、中心飾りを 桐文とするタイプで占められていた。軒丸瓦 の瓦当文は三巴文のみ知られている。丸瓦や 平瓦も含め、厚さ2 cm を越えるものもしばし ばみられ、全体に重厚な作りである。

ところで瓦は、大きな粘土塊から板状の素材を切り出して製作されるが、この頃の切り離しには撚糸が使われた。この時、粘土には弧状の線状痕が残る。このような技法・痕跡をコビキAと称している。その後の製作において、あまり調整されることない丸瓦の裏面にそのまま残されることが多い。

#### Ⅱ一三葉文と花文一

17 世紀初期~前半 (1620 ~ 40 年頃) は、 前代と同じく燻瓦で構成されるが、金箔瓦や 桐文、コビキAの瓦は、1620 年頃を境に廃れ てしまう。軒平瓦の瓦当文は、中心飾りを三



燻瓦 三葉文軒平瓦



燻瓦 花文軒平瓦



燻瓦 丸瓦裏面 コビキB

本の細い葉が立ち上がる三葉文、あるいは牡 丹の花を図案化したとみられる花文とするタ イプが主体となる。粘土の切り離しには、鉄 線が使われるようになり、効率化が図られた と言われている。粘土には直線的な条痕が並 行して残るが、これは鉄線が粘土に含まれる 砂粒を引きずった跡だと考えられている(コ ビキB)。

瓦の作りは、前半までは全体的に重厚さを 保っているが、後半になると薄手の製品が目 立つようになる。

#### Ⅲ-梅鉢文と越前赤瓦-

17世紀前半から半ば(1640~60年頃)には、 燻瓦は、前代に比べ端正・薄手・華奢な作り のものが目立つようになる。軒瓦の瓦当文に は、前田家の家紋・梅鉢文が登場し、以降鉛 瓦や釉薬瓦にも普及していく。燻瓦ではほか に、腰瓦が作られるようになったのもこの段 階からと考えられる。

また、燻瓦に加えて、隣国越前において、 越前焼(越前陶器)と同様の質で作られた陶 器瓦、越前赤瓦が流行する。もっとも越前赤 瓦の類品は、すでに 1630 年前後から導入され ていた可能性がある。しかしいずれにしろ、 流行はほぼこの段階のみの一時期であった。

特異な製品として、寛永 20 年 (1643) 創建 の東照宮の一部の建物に葺かれた石瓦がある。



燻瓦 (梅鉢文軒丸瓦・軒平瓦)



越前赤瓦

石瓦もまた越前福井が生産地である。越前は 親藩松平家が統治していたが、物資の流通は 盛んであったことがうかがえる。

#### IV-鉛瓦の出現-

17世紀後半~18世紀代 (1660~1800年頃) は鉛瓦が出現し、主流となる時期である。その一方、燻瓦は腰瓦を除き、目立たなくなっていく。

金沢城の鉛瓦が文献史料に初めて現れるのは寛文5年(1665)であるが、その採用自体は若干遡る可能性がある。鉛瓦自体の出土事例は少ないものの、越前赤瓦や梅鉢文燻瓦が、17世紀後半の陶磁器等と一緒に廃棄されていることや、宝暦9年(1759)のいわゆる「宝暦の大火」に際し、石垣に溶けた鉛の付着物が城内各所で観察できることなどから、出現と普及のようすが推察される。

燻瓦はまとまった出土事例を欠き、動向が



鉛瓦

不明であるが、このことは、主要な門や櫓、 塀の屋根など、その役割の多くの部分を鉛瓦 に譲るかたちになったことを示唆するもので あろう。ただし泉州堺など、領外の製品が導 入される一方、地元の製品も生産量を落とし ながらも存続していたと想定される。

#### V-釉薬瓦の流行-

18世紀末から19世紀代に入る頃、南加賀では越前の瓦製作技術が導入され、赤褐色の釉薬が掛かる赤瓦の生産が始まった。金沢城では、文化5年(1808)火災後の二ノ丸御殿造営に際し、南加賀の八幡・蓮代寺や、金沢・卯辰山等の瓦が使用されている。二ノ丸御殿では、儀礼等を執り行う格式の高い場所には銅瓦が葺かれているが、役所や詰所に相当する箇所の多くは土瓦(粘土瓦)が葺かれていた。おそらく釉薬瓦が主体だったと考えられる。

発掘調査では、19世紀以後の資料として、 瓦当文・釉調・胎土などがそれぞれ異なる、 さまざまな釉薬瓦が出土しているが、明治時 代になって廃棄された資料が大半である。八 幡や卯辰山など産地が特定できる資料は一部 で、大部分は詳細な産地や年代がはっきりす いない。近代以後に作られた製品との判別も 含め、解明すべき課題である。



釉薬瓦

#### ■ 建物部材と工具・金具

金沢城にかつて存在した様々な建物は、言うもまでもなく木造であり、建物を構成する主たる材は木材だった。しかし木材は火災に弱く、腐りやすい。また建物が解体・撤去されても、部材は再利用されることが多かった。そのため木製の建物部材の出土例はたいへん少ない。ただし水分が残る地中では、比較的良好に遺存している場合がある。金沢城では、橋脚や欄干といった橋の部材など、堀の中から出土した建物部材が幾つかある。

建築に関わる道具として多く出土したものに、釘や鎹といった金具類がある。釘には銅製と鉄製がある。頭部が円形、あるいは円筒形をしたものは、鋲と呼ぶべきかもしれない。このうち小型の銅製品は、鉛瓦を下地の木部を打ち付けることに多く利用されたと考えられる。



橋爪一ノ門前 橋脚基礎と内堀[文4]



鎹・釘

鎹は通常の形状のほか、板状で釘穴が備わる目鎹が、橋の周辺からまとまって出土した。なお、建物の内装に関する装飾豊かな釘隠が、昭和 44 年の調査で出土した。『二ノ丸御殿内装及び見本・絵形』(金沢市立玉川図書館蔵)に描かれた絵画資料と酷似している。

#### ■ 石垣普請の工具・金具

石垣は、築石(石垣石材)を積み上げ、築石間や背後の基盤層との間に小型の礫(栗石)を充填した構築物である。築城当初の石垣石材は、自然石や粗割石だったが、17世紀前半頃にはノミによる加工が進んだ粗加工石や切石が使用されるようになった。

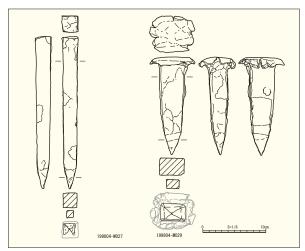
金沢城の石垣解体調査では、石材の整形などにつかうノミ、石を割る際に用いる矢が出土した。矢の利用は次の通りである。対象となる石に列状に穴(矢穴)を掘り、穴ごとに矢を差し込み、鉄製の槌で矢を叩いて石を割



石垣の構造(玉泉院丸南石垣)[文30]



矢による石割



ノミ・矢実測図(五十間長屋下石垣)[文6]



敷金検出状況(橋爪門続櫓)[ 文 4]

り割くのである。

また、角石など切石材を積む際は、その安 定を図るため、楔形や鎹形(建築用を転用) などの金属製品を配置することがあった。こ れを敷金(しきがね)といった。

敷金の種類や大きさは時期によって異なり、 17世紀後半は楔形・鎹形とも大振りで、18世紀後半には楔形が小型化し、19世紀前半には 鎹形のみとなる。この他、鉄の細い延べ棒を 素材とするバネ状の製品がある。これは石材 の左右の隙間に挟み込んで安定を図ったもの と考えられる。

#### ■ 作事・普請と祈り

現在でも工事の着工時には地鎮祭や起工式を行うことがある。江戸時代はこれらの儀礼 行為は盛んに行われており、金沢城では橋の 架け替えや石垣改修時の事例が知られている。

三ノ丸から内堀をはさみ二ノ丸の正門であ

る橋爪門に渡す橋の跡のすぐそばでは、刀二振りと柄鏡、銅銭5枚が置かれているのが検出された。橋は数度架け替えられていて、辟邪の意味を込めた儀礼があったことがうかがえる。

また五十間長屋石垣上部北東隅では、一辺 16cm 程度の立方体の石材が並んで出土した。 石材には「鍬始」「鋤始」の文字と「宝暦十三 癸未年六月廿五日」との日時が刻まれていた (鍬始刻石)。宝暦13年(1763)の石垣改修に伴っ て、鍬始(起工式)が執り行われたことを示 すもので、他に例を見ない出土品である。なお、 この鍬始については、その時使用され、儀式 の次第などが墨書された神具机が、市内波自 加弥神社に伝来している[文45]。



五十間長屋石垣北東角 上部石垣背後より鍬始刻石が出土



鍬始刻石出土状況「 文 4]

#### 瓦

#### 燻瓦 -

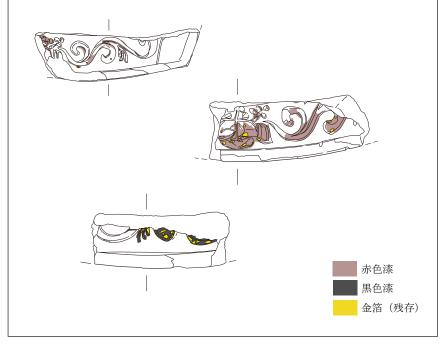
燻瓦は金沢城においては、近世初期から 17 世紀半ばまで屋根瓦の主体となっていた。軒丸瓦・軒 平瓦・丸瓦・平瓦・鬼瓦・腰瓦・熨斗瓦・棟込瓦などの種類が見られる。

#### ◆金箔瓦

本丸附段およびいもり堀に先行する堀(本丸南掘)や本丸附段で、文様部分に金箔が貼り付けられた瓦が出土している。金箔の接着剤として漆が使われた。築城初期の建物に葺かれていたもので、同様の金箔瓦は、豊臣秀吉と縁の深い全国各地の城郭から出土している。



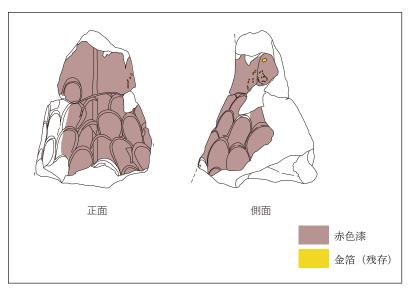


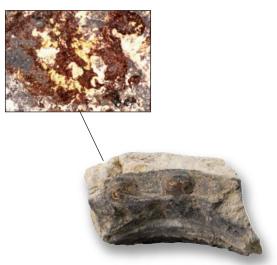


9. 金箔瓦 (軒平瓦) 本丸南堀



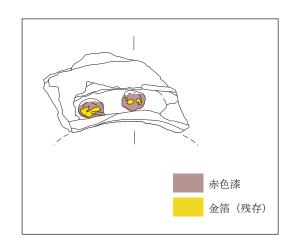
正面





11. 金箔瓦 (器種不明) 本丸南堀

10. 金箔瓦 (鯱瓦) 本丸南堀



#### ◆桐文軒平瓦と丸瓦・平瓦

元和6年(1620)頃までに廃棄されたと考えられる初期の瓦である。このうち軒平瓦の瓦当の中心飾りは桐文が主体となっている。重厚な作りの製品が多く、金箔を貼ったものもみられた。



#### 12. 軒平瓦(桐文)

本丸附段、二ノ丸内堀、河北門、玉泉院丸、本丸南堀 中心飾りの桐文の形状や唐草の表現にバリエーションが 見られる。



表面(尻から)



裏面



表面(尻から)



裏面



13. 丸瓦 本丸附段(上)、本丸南掘(下) 丸瓦は裏面にコビキAの粘土切り離し 痕を残すものが多い。

14. 平瓦 本丸附段 厚手のもの(21~23 mm中心)が目立つ。

#### ◆三葉文・花文等軒平瓦と軒丸瓦・丸瓦・平瓦

寛永年間 (1624~44) 頃までに廃棄されたと考えられる瓦である。軒平瓦の瓦当の中心飾りの文様について、三つの葉で構成される三葉文と花で構成される花文が主体となっている。どちらもバリエーションが多く、寛永8年大火以後もしばらく存続する。



#### 15. 軒平瓦 (三葉文)

本丸附段、河北門、石川門前土橋 中心飾りの三葉文の開きや唐草の巻き方に バリエーションがある。



# 16. 軒平瓦(花文) 本丸附段、河北門

中心飾りの花弁や葉、唐草の描かれ方に バリエーションがある。



#### 17. 軒丸瓦 (巴文) 本丸、本丸附段、河北門 瓦当文様が巴文で、左回りと右回りがあり、 前の尾部が次の尾部の中程まで続く。珠文の 数にバリエーションがある。





19. 丸瓦 本丸附段 コビキBの切り離し痕をもつ。



20. 平瓦 本丸附段 前段階よりわずかながら厚さが 減じている (19~21 mm中心)。

#### ◆梅鉢文軒丸・軒平瓦

前田家の家紋である梅鉢文が、瓦に用いられたのは、金沢城では寛永8年(1631)より後のことである。燻瓦だけではなく、鉛瓦や釉薬瓦にも採用されており、近世後期以後も存続する瓦文様である。



#### 21. 軒丸瓦

玉泉院丸、石川門前土橋 瓦当に梅鉢文が施されているもので、軸の有無、 中心と花弁の大きさ、花弁から中心までの距離の 長短などにバリエーションが見られる。





(花芯の刺突文)

# 22. 軒丸瓦 石川県埋蔵文化財センター蔵 堂形 花芯に刺突文を施し、花弁の周囲に唐草文を配した梅鉢 文の軒丸瓦で、堂形出土例の他に類例がないものである。



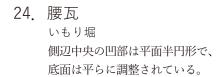
#### 23. 軒平瓦 本丸、玉泉院丸、いもり堀 瓦当の中心飾りが梅鉢文で、唐草の形状に バリエーションが見られる。

#### ◆腰瓦

腰瓦は櫓・長屋・塀の壁に取り付けられた瓦である。大型の銅釘(貝折釘)で壁に打ち留め、漆喰で目張りされたとされ、正面四辺の中央の凹部(窪み)は、釘の頭が掛かる部分と考えられる。凹部の形状にはいくつか種類があり、産地や時期を反映していると推定される。金沢城では寛永8年(1631)以降に使用されたとみられる。



凹部 (拡大)





25. 腰瓦

二ノ丸内堀 側辺中央の凹部は平面半円形で、 底面を平らに調整しない。



凹部 (拡大)

## 26. 銅釘 (貝折釘)

二ノ丸内堀

団扇状の頭が短く折り曲げられ、側面 L 字形を呈する銅 釘。貝折釘は、石川門の解体修理の際、櫓や塀の外壁素 材である腰瓦を打ちとめていたことが確認されている。







-

凹部 (拡大)

#### 27. 腰瓦

玉泉院丸

側辺中央の凹部が平面方形。側面に「<br/>
側のの<br/>
刻印が認められることから、現在の大阪府堺市で生産された製品であることがわかる。









凹部 (拡大)

#### 28. 腰瓦 二ノ丸内堀 側辺中央の凹部が細く浅く

粗雑化している。

## 29. 黒漆喰仕上げの海鼠漆喰

玉泉院丸

海鼠壁に用いられた漆喰で、腰瓦と腰瓦の間に目地として用いられた。鼠多門の発掘調査で出土した海鼠漆喰は、白漆喰で形作った上に、炭を混ぜて黒くした黒漆喰が仕上げとして塗り重ねられていた。このような海鼠漆喰は近世城郭では他に類をみないもので、鼠多門の名称について、壁が暗い色調(鼠色)だったためとする説と合致する。



玉泉院丸 海鼠漆喰出土状況

#### 越前赤瓦 -

金沢城では17世紀半ばから後半にかけて、越前陶器と同質で、鉄分を多く含む土を薄めたものを塗って赤く焼き上げた陶器瓦(越前赤瓦)が使用された。特にいもり堀の下層や三十間長屋西の瓦層で多数出土している。17世紀後半に梅鉢文燻瓦・越前赤瓦がまとまって廃棄され、その上位に溶解した鉛を大量に含む層が認められることから、宝暦9年(1759)大火で鉛瓦が被災する以前の17世紀後半に赤瓦等から鉛瓦へ改められたと考えられる。



30. 軒丸瓦いもり堀瓦当文様は巴文で、右回りと左回りがある。巴の尾の長さや珠文の数にバリエーションがある。













#### 31. 軒平瓦

本丸附段、東ノ丸、河北門、御宮、いもり堀 瓦当の中心飾りは半葉文である。半葉文は葉の形状や 葉脈の本数、唐草の形状にバリエーションが見られる。



釘穴 (拡大)



32. 丸瓦 いもり堀 被熱している。表面に釘穴がある。



表面尻から

33. 丸瓦

いもり堀 表面に重ね焼きによる溶着痕がある。 体部裏面には調整痕が残る。塗りは裏 面には施されていない。



裏面の調整痕



35. 平瓦 いもり堀



36. 熨斗瓦
いもり堀
平瓦を縦に二分しているが、割ったところを
面取りするように削って、丸く仕上げている。

#### 石瓦:

御宮から緑色凝灰岩製の石瓦が出土している。緑色凝灰岩は、笏谷石と呼ばれる現在の福井県福井市足羽山周辺で採掘された石材とみられる。軒丸瓦・軒平瓦・丸瓦・平瓦等で構成されており、本瓦葺の屋根を構成すると推測される。このような石瓦がまとまって出土しているのは御宮のみであり、三葉葵文が刻まれた鬼瓦の存在や出土地点から、これらは寛永 20 年(1643)造営の東照宮に関連する屋根瓦と考えられる。





下広がりの台形の窪みがあり、棟瓦が接続する。

石瓦出土状況 東照宮造営により造成された平坦面が御宮 側の斜面上からの流土により埋没する過程 で、石瓦が燻瓦や17世紀中葉の遺物とと もに廃棄されている。

### 37. 鬼瓦・鳥衾

御宮

鬼瓦は両側面に突起がある形で、表面が丸く 刳り込まれていて鳥衾が乗る。中央には三つ 葉葵の紋が陽刻されているが、茎が長い古い 形であり、本来葉脈が描かれているところに 丁子のようなものが陽刻されている。



### 38. 軒丸瓦

御宮

瓦当文様は左回りの巴文で、陽刻されている。 珠文がなく、巴は扁平で頭部が小さく尾が幅 広い、粘土瓦には見られないタイプである。



39. 軒丸瓦 御宮 瓦当文様は左回りの巴文で、 陽刻されている。

### 40. 軒平瓦

御宮

欠損のため、瓦当の中心飾りは不明。文様区の 輪郭と唐草文の周囲を沈線状に窪ませている。



### 41. 軒平瓦

御宮

瓦当の中心飾りは四葉で、唐草は1本ずつ独立 している。文様区全体を窪ませて、中心飾りと 唐草文を浮き彫りにしている。



### 42. 掛瓦 (箕甲瓦)

御宮

軒平部は文様区が木瓜形であり、文様区の 輪郭と唐草文の周囲を沈線状に窪ませてい る。欠損のため中心飾りは不明だが、唐草 文はそれぞれが独立している。小丸部は扁 平な左回りの巴文で、軒丸瓦と同じである。



側面

裏面の調整

### 43. 丸瓦

御宮

体部は玉縁側が厚く、正面側が薄い。側面は 横に開き、裏面の抉りが浅い。玉縁部は緩や かなカーブの山型となっている。



裏面の調整

### 44. 丸丸 御宮 棟瓦に接する 無く、両端え

44. 丸瓦 御宮 棟瓦に接する部分の丸瓦。玉縁部が 無く、両端が平らに調整されている。



45. 平瓦

表面



裏面の調整

# 46. 平瓦 御宮

表面と正面・側面は丁寧に調整されている。 裏面は頭部側を平滑に調整し、残りはツル痕 が強く残っている。





裏面の調整

### 47. 桟瓦

御宮

左桟瓦である。表面と正面・側面は平滑に 調整されている。裏面は頭部側と山部は比 較的丁寧に調整されているが、それ以外は ツル痕が強く残っている。



48. 桟瓦 御宮 左桟瓦。裏面に「△」の陰刻 のようなものがある。

裏面の調整



### 49. 棟瓦

御宮

四角い棒状で、裏面は深いV字形に抉られている。石段の雁木石に転用されており、表面に石段の使用痕跡と思われる摩耗が見られる。



石段検出状況 緑色凝灰岩製の棟瓦を雁木として転用した簡易な 石段がつくられ、御宮と藤右衛門丸をつなぐ通路 として利用されていた。

#### 鉛瓦 -

鉛瓦は木の下地に、薄い鉛の板を張り付けて、瓦屋根状に仕上げたもので、金沢城では 17 世紀後半から櫓や土蔵、塀の屋根瓦の主体となった。いもり堀の発掘調査では、煤が付着したものや木の下地が炭化したものが出土しているが、これらは宝暦 9 年の大火(1759)で被災し、廃棄されたものとみられる。



表面

裏面

50. 軒丸瓦 東ノ丸附段 裏面の観察より、文様が打ち出し によるものとわかる。



表面



裏面



銅釘による固定(側縁下から)

### 51. 軒丸瓦

二ノ丸内堀

上端が欠けた円形を呈する木型の表側には文様を 打ち出し円筒状に整形した鉛板が、裏側下半には 別造りの半円形の鉛板が取り付けられ、側縁・裏 面を銅釘で固定した。



表面

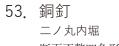


裏面



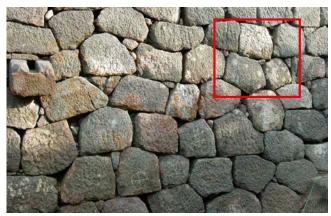
銅釘による固定 (側縁下から)

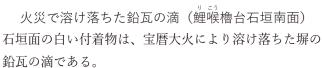
52. 軒丸瓦 いもり掘 煤が付着し、木の下地が著しく炭化していた。



断面不整四角形の本体に略円形の頭が付いた形状で、鉛瓦や銅板等の打ち付けに用いられた。











54. 軒平瓦 河北門 瓦当の文様は唐草文で、上面に木の下地に 固定するための釘穴が2ヶ所あいている。



表面



裏面

### 55. 軒平瓦

河北門 文様を打ち出した工具痕が明瞭である。 上面に釘穴2ヶ所あり。











表面



裏面

### 56. 軒平瓦

いもり掘 煤が付着している。裏面に文様を打ち出した工 具痕が明瞭に認められる。

### 釉薬瓦 -

19世紀代には鉛瓦と並んで、小松市八幡窯や金沢市卯辰山周辺などで生産された釉薬瓦が多く利用された。刻印は「①」や「卯辰山」などが見られる。なお、釉薬瓦は近代に入って作られた製品との区別が難しいものがあり、課題となっている。



57. 軒丸瓦 ニノ丸内堀、玉泉院丸 瓦当文様は巴文と梅鉢文 (剣梅鉢)。



釘穴に残る釘 (下面から)









刻印「〇」 (拡大)

### 58. 軒平瓦

玉泉院丸

瓦当の中心飾りは梅鉢文で、燻瓦の梅鉢文 軒平瓦と類似した特徴をもつ。

次頁掲載の「卯辰山」刻印銘瓦と胎土や釉 調が似通っているものが多く、卯辰山産と 考えられる。



釘穴に残る釘





刻印 (拡大)

### 59. 軒平瓦 玉泉院丸 瓦当文様は菊花と流水からなり、瓦当右上に「卯辰山」 の刻印を持つ。尻部にあけられた釘穴に釘が残る。



### 60. 軒桟瓦 玉泉院丸 瓦当の中心飾りは五弁花文。輪郭線で 描かれた葉状の唐草がある。

61. 軒桟瓦 瓦当の中心飾りは星文である。 近代の製品の可能性がある。



### 62. 軒桟瓦

玉泉院丸 瓦当の中心飾りは桜文である。 近代の製品の可能性がある。



体部の釘穴





刻印「①」 (拡大)







刻印 🔘 (拡大)

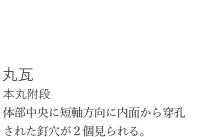
### 63. 軒平瓦、軒桟瓦

二ノ丸内堀、玉泉院丸 いずれも瓦当の中心飾りは玉文で、玉や唐草の 形状にバリエーションが見られる。軒桟瓦の小 丸部の瓦当文様は剣梅鉢である。 「①」の刻印や胎土などから、八幡など南加賀の 製品とみられる。



### 64. 軒桟瓦

本丸附段、三ノ丸、玉泉院丸 瓦当の中心飾りは菊花文で、花弁の数や形状、 唐草の形状にバリエーションが見られる。







66. 平瓦 玉泉院丸 被熱のため釉が一部とんでいる。 尻部に上面から穿孔した釘穴が 1個あるが、貫通していない。 正面に「①」の刻印がある。



65. 丸瓦

本丸附段

刻印「①」 (拡大)



67. 栈瓦 玉泉院丸 尻部山側に上面から穿孔した 釘穴が1個ある。

68. 巴瓦 玉泉院丸

> 瓦当面は松の形で、表面は刺突されている。 釘穴が体部中央の短軸方向に2個、長軸方 向に2個、内面から穿孔されている。



刻印「魚(拡大)

. 6

釘穴に残る釘(下面から)

71. 棟瓦 玉泉院丸 上面に5条の櫛描き平行沈線を施している。焼成前に上面から穿孔した釘穴が2個あり、釘が僅かに残っている。

尻部に2個、山部に縦方向に2個、釘穴がある。山部正面の「⑦」の刻印や胎土などから、八幡など南加賀の製品とみられる。

70. 谷筋違い瓦

玉泉院丸

72. 棟瓦 橋爪門 体部中央に上面から穿孔した 釘穴が 2 個ある。



73. 釉薬瓦(熨斗瓦) 玉泉院丸 片側の側縁付近にあけられた 穴に、銅線が残っている。



74. 熨斗瓦 玉泉院丸 半割りささ 上面から2

74. 突十八 玉泉院丸 半割りされている。片側の側縁付近に 上面から穴があけられている。



釘穴に残る釘(表 面から)





裏面に付着する離れ砂

### 75. 面戸瓦 <sub>玉泉院丸</sub>

蟹面戸で、表面から穿孔した釘穴2個のうち片側に 釘が残り、裏面には離れ砂が付着している。





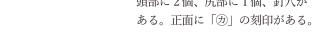
### 76. 面戸瓦 <sub>玉泉院丸</sub>

無釉の把手付鰹節型の面戸瓦。把手の 形状は台形である。



刻印「汤」 (拡大)

77. 棟込瓦(輪違) 玉泉院丸 頭部に 2個、尻部に 1個、釘穴が





78. 棟込瓦(輪違) 玉泉院丸 内面はコビキBで、棒状圧痕が残って いる。体部中央に釘穴が2個ある。



裏面の調整痕

### 建築部材と工具・金具

### 木材など -

二ノ丸内堀やいもり堀、本丸南堀からは、橋などの建築に関する大型の木材が出土している。



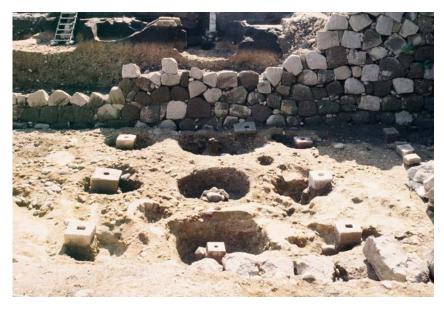


部材取り上げ作業

### 79. 大型部材

本丸南掘

長さ474.3cm以上、最大幅33.5cmを 測るマツ属の芯持材で、粗い面取り が施された断面略方形の形状をとる。 残存する端部に施された継ぎ手の細 工(蟻継)の形状から、本部材は水 平材とみられるが、下部にも枘穴が あり、継ぎ手の下方にも何らかの材 が取り付いていたと考えられる。表 面の大部分が炭化していたが、意図 的に焦がされものと考えられる。橋 桁などとして使われた可能性がある。



内堀 橋脚基礎 全景

二ノ丸内堀東部西端に位置する三ノ丸と橋爪一ノ門を結ぶ木橋の橋脚の基礎9箇所を検出した。橋脚基礎は、長径2mに及ぶ穴(橋脚掘方)や礎石で構成されており、架橋方向(南北方向)に沿って、中央・東・西の各列に3基ずつ橋脚が配置されている。また、橋脚列周辺の土層の堆積状況から、橋は3段階の架け替えが推定される。



内堀 橋脚検出状況 最終段階の橋脚本体の一部が、原位置をとどめた 状態で遺存していた。下位で確認された盤状の戸 室石は前段階の礎盤である。

80. 橋脚 ニノ丸内掘

遺存していた橋脚の基部である。断面方形で側面間は面取りされ、先端は杭状に削り出されている。樹種はツガ属。



二ノ丸内掘

二ノ丸内堀橋脚基礎付近で出土した欄干の親柱である。断面方形で、側面のうち1面には上下二段に枘穴があけられている。また、上端部は面取りされている。樹種はケヤキ。



#### 釘

城内各所で銅製及び鉄製の釘が出土している。銅釘は、櫓や塀の外壁素材である腰瓦を打ち留めるのに用いられ(貝折釘)たり、鉛瓦や銅板の打ち付けに用いられたものがみられる。鉄釘は、銅製と同様の形状の貝折釘、頭の形状が円筒状(鋲状)を呈するもの、頭巻釘に大別できる。



83. 銅釘 二ノ丸内堀、五十間長屋

#### 鎹・目鎹 -

金沢城の調査で出土した鎹には、建築部材として用いられたものと石垣の敷金として用いられたものがある。ここでは建築部材として用いられたものを紹介する。

目鎹の歯は一方のみで、胴部は一般の鎹に比べて薄く、釘穴(目)が $2\sim3$ 箇所あけられている。特に内堀で集中して出土している。



#### 84. 鎹

二ノ丸内掘、菱櫓 木製部材の連結に使われ、様々な長さ の物が見られた。中には長大で、刃の 長さが左右で異なるものもあった。



二ノ丸内掘

釘穴が2~3箇所あけられているものが見られ、鉄製貝折釘と組み合わせて 用いられたことを示す資料がある。

### その他 -

二ノ丸内堀、五十間長屋、菱櫓から出土した建築部材とみられる金具や工具を集めた。金具の材質 は鉄や銅、銅・鉛の合金などである。



86. 金具 二ノ丸内掘、五十間長屋、菱櫓



釘隠絵形



87. 釘隠 金沢大学資料館蔵 二ノ丸

御殿の内装を構成する飾り金具で、 出土状況より、文化7年 (1810) に再建された後期御殿より前に使 用されていたと考えられる。扇を モチーフとしており、後期御殿の 絵形とほぼ同様の意匠である。

### 石垣普請の工具・金具

### ノミと矢 -

石垣解体調査では、石を割り加工する道具・工具も少量出土した。ノミは槌(ハンマー)と合わせて使い、石の形を整える道具である。矢は石を割るときに用いる道具の一つで、割る石に列状に穴(矢穴)を掘っておき、鉄製の鎚でたたいて打ち込むことで、石に水平方向の圧力を加えて割り裂くものである。



89. ノミ 橋爪門続櫓 鉄製。鋭利な先端を持ち、細身で 断面角柱形を呈する。



90. 矢 五十間長屋 鉄製。先端は鋭利で、頭部に 叩いた痕跡が見られる。

### 敷金 -

五十間長屋下石垣などの石垣の解体調査で、石垣石材の安定を図るため石材間の隙間に配置された敷金が出土している。敷金には鎹形、楔形のものに大別される。鎹形は建築部材の鎹の転用と考えられる。楔形は、17世紀後半段階では大型品が目立ち、18世紀後半段階では小型化し、19世紀前半では使われなくなるようである。このほか、少ないがバネ状のものも見られ、出土状況から敷金の一種と考えられる。



91. 敷金(17世紀後半) 菱櫓 寛文8年(1668)の石垣修築で 使用された。



敷金検出状況(菱櫓) 寛文8年(1668)の石垣修築部分で検出



### 92. 敷金(18世紀後半) 河北門 宝暦11年(1761)の石垣修築で 使用された。



刻印「◯」と「□」



93. 敷金 (19 世紀前半) 橋爪門続櫓 文化5年 (1808) の石垣修築で 使用された。



### 94. バネ状製品

橋爪門続櫓

断面多角形を呈する棒状の鉄素材を、円をなすように 3回ほど右方向に巻いて仕上げられている。石材の左 右の隙間に挟み込む敷金の一種で、文化5年(1808) の石垣修築で使用されたと考えられる。

### 作事・普請と祈り

### 刀・鏡・銭 一橋架け替えの儀礼 一

三ノ丸と二ノ丸を結んでいた橋(内堀橋)の橋脚基礎付近で、刀2振り、柄鏡1柄、銭(寛永通宝) 5枚が出土した。これらは、銭(寛永通宝)の初鋳年代や柄鏡の製作年代から、宝暦9年(1759)の 大火以後、橋の架け替えに係る儀礼の際に供えられたと考えられる。



#### 95. 柄鏡

二ノ丸内堀

本体の材質は銅・鉛の合金である。鏡背の文様は、地文に 松・笹竹・鶴・亀を配した蓬莱文で、「藤原周重」の銘が入る。 藤原周重は京都の鏡師らしく、江戸時代中期の作品が残っ ているようである。











### 96. 寛永通宝

二ノ丸内堀

古寛永 1 枚と新寛永 4 枚が供えられた。 初鋳年の一番新しいもの 2 枚が享保 11 年(1726)であることから、儀礼が行 われた時期は享保 11 年以後であると考 えられる。

### 97. 刀

二ノ丸内堀



98. 切羽 二ノ丸内堀 材質は銅。刀身とは分離して検出された。



目貫(拡大)

#### 99. 刀

二ノ丸内堀

黒色漆塗りの樹種モクレン属の鞘に収まった 状態で出土した。鞘の先端(こじり側)は欠 損している。鞘・柄のほか鍔・切羽・縁・目 貫・柄頭等が装着されていた。目貫の材質は 銅で、表面に鍍金が認められる。



刀出土状況

内堀橋東橋脚列の北、三ノ丸南面石垣の前で、刃を石垣側に 向けた状態で出土した。このことから、儀礼には橋を守る辟 邪の意が込められていると思われる。

#### 鍬始刻石 -

二ノ丸五十間長屋台石垣の解体修理工事に伴う発掘調査で、銘文の刻まれた赤戸室石の切石材が2つ出土した。切石は一辺15~16cm程度の立方体を呈し、角石・角脇石の控えの間に南北に連なって安置された後、栗石で覆われていた。上面・下面にそれぞれ銘文があり、北側の石は上面に「宝暦十三癸未年 鋤始 六月廿五日」、下面に「鍬始」、南側の石は上面に「宝暦十三癸未年 鍬始 六月廿五日」、下面に「鋤始」と刻まれていた。これらは石垣改修の際の起工式(鍬始)を記念したものと考えられる。これらの石の出土により、石垣の修築時期や、石垣改修の際に「鍬始」の儀式が行われたことが明らかとなった。





北側の石 (上面)

北側の石(下面)







南側の石 (下面)

#### 100. 鍬始刻石

五十間長屋

干支の「癸未」は横に並べ、「癸」をやや上に 置いている。上面では「鋤始」・「鍬始」の文字 が大きく、両側の文字はやや小さくなっている。



鍬始刻石出土状況

### 呪符墨書土器と五鈷杵 ———

玉泉院丸から内面にまじないとみられる文字が書き連ねられた土師器皿(呪符墨書土器)と、密教 法具の一つである五鈷杵が出土した。金沢城内では珍しい遺物である。



### 101. 呪符墨書土器

玉泉院丸

17世紀初頭まで遡る、庭園の作庭以前の武家屋敷時代の製品で、内面にまじないの文字や符号が墨書されていた。



102. 五鈷杵

玉泉院丸

古代のインドの武器をもととし、密教などで加持・祈祷に用いられる法具。明治時代以後の土層から出土しており、本来の年代や使われ方などは明確ではない。

## 城の暮らし・勤めとモノ―生活・勤務に関する出土品―

#### 解説一

#### ■ 城内の暮らしと勤め

近世城郭は軍事の拠点であるとともに、領 国統治の中核であり、領国を治める藩主とそ の家族の邸宅でもあった。

寛永8年(1631)の大火以前、金沢城では、 本丸・東ノ丸一帯に御殿があり、藩主が暮ら す生活空間がその一角を占めていた。また初 期の城内の景観を伝える絵図には、新丸・玉 泉丸・三ノ丸・二ノ丸などの曲輪に、主だっ た家臣らが屋敷を構えている状況が描かれて いる。詳細な内容については検討すべき点も 多いが、発掘調査地点の下層からは、陶磁器 など生活用具が出土しており、武家屋敷の存 在を示唆している。この頃は、城内の各所に、 暮らしの空間が点在していたのである。

寛永8年以後、家臣の屋敷の大半は城外へ 転出し、御殿も二ノ丸へ移った。二ノ丸御殿は、 対面の儀式などの場が中心であった「表向」、 藩主とその家族の居住空間が多くを占めた「御 居間廻り」「奥向(広式)」で構成されていた。

こののち、金谷出丸や蓮池・竹沢(のちの

兼六園)にも屋敷や御殿が置かれ、城内の暮らしは、御殿に住まう藩主とその家族、これに仕える女中衆により営まれることとなる。 事例は少ないものの、二ノ丸御殿での暮らしに関わる遺物も出土している。

城内での暮らしが、二ノ丸など御殿の一角に限定される一方、御殿には執務空間も多く占めていたし、他にも城内には役所・番所・門・櫓・土蔵など、居住施設とは異なる多くの建物があった。藩士達にとっては、城は暮らしの場所ではなく、勤め先だった。

役所や番所付近の発掘調査では、陶磁器の 碗・土瓶・火鉢等がセットで出土することが 多い。これらは役所や番所に共通に備え付け られた、いわば備品の一部と考えられ、先に 紹介した、日常生活の陶磁器とは性格を異に すると言える。

これとは違って、その場所の役割・性格を 如実に示す出土品もある。二ノ丸五十間長屋 における鏃や、三ノ丸の鉄砲所における鉄砲 部品などの武器は、その最たるものである。



二ノ丸御殿 (近世後期)

「御城中壱分碁絵図」(部分、加筆) 横山隆昭氏蔵

### ■ 城内の暮らし―御殿と武家屋敷の出土品― 【寛永大火以前の本丸とその周辺】

本丸については、天守の位置や御殿建物の 詳細な配置など、中枢部分の実態は不明であ る。しかし発掘調査により、出入口や庭園遺 構を確認するとともに、御殿で使用された陶 磁器や、食物残滓として捨てられた魚骨など を検出した。

本丸周辺出土の陶磁器は、他の曲輪の出土 品に比べると上質の製品が目立つ。東ノ丸附 段では、東ノ丸や本丸から廃棄された、寛永 8年(1631)大火被災資料が出土した。いず れも小片であるが、中国磁器五彩皿等、他の 曲輪ではみられない優品がある。

また本丸南東部では、寛永大火で被災した 礎石建物周辺で、中国製の陶器壺・天目茶碗、 ベトナム製の長胴瓶、国産品では九州高取窯 の壺ないし水指、信楽や伊賀の壺など、茶の



礎石建物検出状況(本丸南東 2008-1SB01)[文8]

湯に用いられた茶器の破片が見つかった。

本丸の西側に隣接する本丸附段は、寛永8年の大火後、三十間長屋等少数の建物が建つ広場となったが、大火以前は板塀・鍛冶場・穴蔵・池状遺構・ごみ穴などが密集する空間だった。本丸にあった御殿の裏手にあたり、御殿の生活を支える奥向きの一角だったとみられる。ごみ穴からは陶磁器や土師器皿の破片のほか、魚骨がまとまって出土した。本丸御殿の食生活の一端を示すものである。なお池状遺構では馬の頭蓋骨の一部が供えられていた。埋め戻しの際のまじない行為と考えられる。

#### 【城内の武家屋敷】

三ノ丸河北門の発掘調査では、城内でも重要な門の一つである河北門の変遷過程が判明するとともに、慶長年間 (1596 ~ 1615) 後半以前、門に隣接して武家屋敷が営まれていた



本丸附段調査区[文2]



馬骨出土状況(本丸附段 2004-1SK11)[文2]

ことが明らかになった。古段階の河北門の通路との境の溝には、様々な陶磁器が捨てられていた。碗・皿類に加えて、擂鉢のような調理具があり、日常的な生活が営まれていたことがうかがえる。

陶磁器食膳具の生産地としては、中国のほか、中世には国内唯一の施釉陶器の産地であった瀬戸・美濃を抑え、九州肥前地方の陶器(唐津焼)が主体となっている。肥前地方の陶磁器は、こののち金沢のみならず、北陸地方の暮らしに欠かせない食器として、江戸時代を通じて普及する。

河北門の南西、五十間長屋の下層でも、やはり寛永以前の武家屋敷の一角が発掘された。 遺構の主体は壁土を取ったと考えられる土取り穴であるがごみ穴に転用されており、河北門下層よりやや新しい時期の遺物が多数出土した。ここでは陶磁器のみならず、金属製品や木製品も残っていた。金属製品では、煙管の雁首・吸口や中国銭などのほか、刀装具の一種・小柄がある。

木製品には漆器碗や鉢といった食器や、下 駄や玩具(人形)など、多様な暮らしの用具 がみられ、城下町遺跡と変わらない遺物の組 み合わせを示している。

#### 【二ノ丸御殿と「部屋方」】

寛永8年(1631)の大火後、上記の武家屋敷を埋め立て、拡大造成された二ノ丸に、大規模な御殿が新たに設けられた。このうち御殿のおおよそ西側(「御居間廻り」「奥向」)が、藩主とその家族の邸宅部分に相当する。

「奥向」の一角には、藩主とその家族に仕える女中衆の住まう「部屋方」が営まれた。御殿で使用された生活用具の実態はあまり明らかになっていないが、玉泉院丸鼠多門付近では、明治初期になって旧「部屋方」から用済



河北門下層 SD006(屋敷境の溝)[文3]



武家屋敷で使われた陶磁器(河北門下層)



漆器碗出土状況(五十間長屋下層)[文5]

みとなって廃棄されたと推定される、紅皿などの化粧道具がまとまって出土している。

また玉泉院丸では、土人形や土製の独楽が出土している。これらは城内の他の場所ではみられない特徴であり、二ノ丸奥向から出向いた住人達が、玉泉院丸庭園で遊興していたことを想像したくなるが、紅皿などと同じく、二ノ丸奥向で使われていたものが、まとめて廃棄された可能性もある。

#### ■ 城内の勤め―役所などの出土品―

#### 【役所・番所の陶磁器】

城内の各所にあった役所や番所付近を発掘すると、たいていの場合、陶磁器の碗が目立って出土し、それに土瓶や小型の火鉢が若干加わる。一方、皿や鉢等の食膳具はあまりみられない。碗は、同一種類がまとまった揃いの状態であることが多い。また碗や火鉢には役職等を示す釘書や墨書が記された事例がある。このような碗や土瓶は、役所や番所に備え付けられた喫茶用具、火鉢は暖房具と考えられる。これらは明治初期に廃棄されているが、生産年代が古いものが多く、年代物を長期間使っていたことになる。上記したような性格上、頻繁に取り換えられるものではなかったようである。

#### 【三十間長屋と御鳥部屋】

城内各所の出土品には、出土場所の性格を 強く示す、その場所ならではのものも認めら れる。

本丸附段階段付近の調査では、上層から多くの陶磁器が出土したが、先に紹介した役所や番所付近と異なる一つの特徴があった。ここでは皿や鉢といった、大型の食膳具が目立ってみられたのである。復元すれば直径 30cm を越える大皿も含まれており、多くのものに熱を受けた痕跡が認められる。



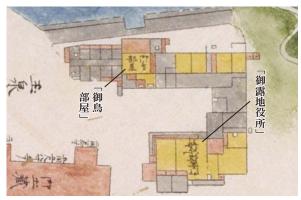
三十間長屋



役所で使われた陶器碗・火鉢(玉泉院丸)

本丸附段の西辺には、寛永年間(1624~44)頃より三十間長屋が建っていた。現存の建物は二代目で、安政5年(1858)の再建である。初代の三十間長屋は宝暦9年(1759)の大火で焼失したが、絵図の記載によると「台所方」の管轄で、「御家具土蔵」とも呼ばれていた。これらを考え合わせると、周辺で出土した大皿など大型の陶磁器食器は、三十間長屋に収納されていたが、宝暦の大火で被災し、廃棄されたものと考えられる。

また玉泉院丸では、「鳥の餌入れ」として知られる製品が出土している。近世後期の絵図をみると、庭園整備に携わった露地役所の続きに、小鳥を飼育した「御鳥部屋」があったので、ここで用いられていたと考えられる。小鳥の飼育は近世後半になってたいへん流行し、愛好する藩主もいた。城勤めの多彩さを示す資料でもある。



御鳥部屋

「御城中壱分碁絵図」(部分、加筆) 横山隆昭氏蔵

#### 【庭園関連の出土品】

庭園の出土品は、普請・作事との繋がりも深いが、場所の特性を示し、露地役所の勤めとも関わるものとしてここで取り上げる。

玉泉院丸や本丸の庭園遺構では、石橋の橋脚の部材とみられる円柱状の製品、水鉢、灯籠部材、敷石などが出土した。いずれも原位置は保っていなかったが、園内の逍遥に供したものであろう。また意匠的な文様を線刻した瓦も、庭園内の建物を飾っていたと思われるもので、庭園ならではの出土品である。

#### 【鏃と鉄砲部品】

軍事施設である城郭にも関わらず、武器の 出土は意外に少ない。これは日常において、 武器を簡単に廃棄できるような状況ではない ことが大きく預かっている。数少ない事例の 一つに、五十間長屋台出土の鉄製の鏃がある。 二ノ丸の東辺を固める五十間長屋には、鉄砲 が配備されていたことが史料にみえるが、鉄 砲とともに弓矢も保管されていたことがうか がえる。文化5年(1808)の火災で被災し、 回収に漏れたものだろうか。

三ノ丸北東部の発掘では、鉄砲(炮)所に付属する「細工所」の遺構の一部を確認した。 遺構面では多数の火縄銃の部品や銃身の一部、 鍛造剥片などが見つかった。火縄銃の部品の 多くは真鍮製で、目当(照準)・火蓋・引金・ 内部のカラクリ・各種の鋲等多岐にわたる。

「細工所」は、本来は鉄砲の修理やメンテナンスを行った一角だったようであるが、出土した部品とその構成は、藩政末期、火縄銃から洋式銃への改造作業が行われたことを物語っている。通常なら回収されてしまうところ、何らかの理由でそのまま廃棄されたため、後世にその間の事情を伝えることになったのである。



池遺構(本丸北部)[文8]



菱櫓・五十間長屋・橋爪門続櫓台 [ 文 2]



「御城中壱分碁絵図」(部分、加筆) 横山隆昭氏蔵



鉄砲部品等 (鉄砲所)

# 城内の暮らし 一御殿と武家屋敷の出土品 -

## 寛永大火以前の本丸とその周辺 -

本丸一帯は築城初期に天守や御殿が置かれ、寛永8年(1631)の大火まで城郭の中枢であった。確認調査の結果、元和6年(1620)の火災を契機に、御殿空間の拡大が図られたことが明らかになった。出土した陶磁器は小片ではあるが、城内の他の地点に比べて希少なものや上質なものが目立つ。





中国磁器 碗・皿・香炉



瀬戸・美濃陶器 織部 碗・向付・花入

## 104. 東ノ丸附段出土陶磁器 東ノ丸附段 寛永8年(1631)の大火で被災し、本丸側から 廃棄されたもの。細片が多いが、中国磁器五彩 皿などの優品がまとまって見られる。



軟質施釉陶器 碗

# 105. 本丸附段出土陶磁器① 本丸附段

慶長年間 (1596~1615) 後半頃の陶磁器。 大型で浅い器形の土師器皿 (右上) は、 京都の製品の影響を残す。儀礼的な宴の 食膳具であるが、灯明皿としても利用さ れた。



ごみ穴から出土した土器・陶磁器



#### 106. 魚骨

本丸附段

慶長年間 (1596 ~ 1615) 後半頃のごみ穴 に廃棄されていた魚骨。アラ、タラ、タイ などが検出されており、当時の食生活の一 端を示す。

(上から) 1列目: アラ

2列目:タラ (スケトウダラ・マダラなど)

3列目左:フサカサゴ

3列目右: サケ・マス類、フグ、コチ 4~5列目: タイ (マダイなど)





土師器皿



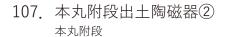


瀬戸・美濃陶器 皿・小杯





中国磁器 碗



寛永8年(1631)大火頃の陶磁器。土師器皿は、 京都の影響が薄れ、金沢地域独自の形態が 流行する。まだ肥前磁器(伊万里焼)は流 入していない。



肥前陶器 碗・皿・鉢・擂鉢

## 城内の武家屋敷 -

#### ◆陶磁器

河北門の発掘調査では、慶長後期に枡形が成立するまでの変遷過程が判明し、初期の門・通路と隣 接する武家屋敷との境の溝から、多くの陶磁器が出土した。慶長頃から流行する肥前陶器が主体的に 見られた。



108. 河北門下層出土陶磁器 河北門 慶長年間(1596~1615)後半頃。慶長頃から 肥前陶器が流行し、陶磁器の主体となる。

肥前陶器 碗・皿・鉢

寛永8年(1631)の大火後に、二ノ丸に御殿が移された際、二ノ丸の東半分が盛土造成された。 発掘調査で造成土の下(五十間長屋下層)から御殿以前に存在した武家屋敷地に伴う遺構が確認され、 これらの遺構から陶磁器などの生活用具が多数出土している。



軟質施釉陶器 鉢・碗

元和年間 (1615~24) 頃の陶磁器。 武家屋敷の存在が想定される。

#### ◆小柄、煙管、渡来銭

五十間長屋下層の遺構からは、小柄や煙管、渡来銭などの金属製品もまとまって出土している。





猪(拡大)

#### 110. 小柄 五十間長屋

細工用の小刀で、日本刀に付属する。左上の 製品は、銅製で戸尻が丸みを帯び、素文である。 右下の製品は、銅の本体に金・銀の合金や銀 の薄板を被せて細工し、二頭の猪を表現して いる。





#### 111. 煙管

#### 五十間長屋

左上の製品は真鍮製で火皿~雁首。右上の製品は 真鍮製で羅宇(煙を通す管)の前後に付随する肩。 下の製品は肩部を一体に作り出した吸口で、銅製。 羅宇が一部遺存していた。



洪武通宝

熙寧元宝

112. 銅銭五十間長屋北宋銭および明銭である(渡来銭)。

#### ◆漆器、下駄、木製人形

金沢城の出土木製品の多くが、二ノ丸内堀および五十間長屋下層から出土している。概して二ノ丸 内堀出土資料は建築部材が中心であり、五十間長屋下層出土資料は生活用具の比率が高い傾向が見ら れる。



113. 漆器椀・皿

五十間長屋

内外面赤色漆が施されたものと内外面黒色漆で赤色漆が施されたものがある。内外面赤色漆の製品の下地は砂混り粘土で、内外面黒色漆の製品の下地は炭粉。樹種はケヤキ、トチノキ、ブナ属等。







## 114. 下駄

五十間長屋

足を乗せる台と歯が一木で作られている連歯下駄である。 左上のものは後の歯が別材で補修されていた。また、右の ものは鼻緒の穴が前面に1箇所しか見られない。樹種はい ずれもスギである。







鍬形

人形



刀形



舟形



火鑚棒・火鑚板

## 115. 木製人形等

五十間長屋

火鑚棒・火鑚板は、近世の段階では一般的な発火具 ではなく、神事や儀礼的な場で用いられていたと推 定されている。人形・舟形・鍬形は、遊戯具だとし ても信仰・習俗と強い関連性をもつと考えられる。

## 二ノ丸御殿と「部屋方」一

#### ◆紅皿と段重

玉泉院丸(鼠多門)の調査で、明治 17 年(1884)の埋立土から、紅皿、段重といった、女性の利用が想定される遺物がまとまって出土した。これらは  $18\sim19$  世紀の肥前磁器が主体で、本来二ノ丸御殿で使用されていたものと考えられる。



段重・段重蓋

紅皿・紅猪口と呼ばれる器は、内面に化粧用の紅を 塗りつけたもので、専用で作られたものだけでなく、 小碗からの転用とみられるものがある。

段重は白粉を溶くための道具として使われたと考え られる器である。

#### ◆土人形

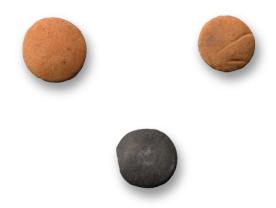
土人形等土製玩具は、18世紀以降城下町の遺跡でよく見られる遺物であるが、城内では玉泉院丸からの出土に限られる。二ノ丸広式に居住した藩主の子女・側室等との関連が考えられようか。



117. ミニチュア土製品 玉泉院丸釜、蓋、土瓶、香炉などの器物が見られ、 型作り、型合わせで作られている。



118. 土人形 玉泉院丸 人物や動物などが型作り、型合わせ、 あるいは手づくねで作られている。 彩色が施されたものもある。



119. 碁石状土製品 玉泉院丸 径は2cm前後で、橙色の胎土と 黒色の胎土のものが見られる。



## 120. 円盤状土製品

玉泉院丸

独楽と考えられ、型作りで中央に穴があく。全面に 雲母粉が残っているものもある。出土した 23 点の うち、10 点以上が同笵と見られる。

## 城内の勤め 一 役所などの出土品 -

## 役所・番所の陶磁器 -

玉泉院丸には、庭園等の造営・管理に携わる露地役所などもあった。玉泉院丸の発掘調査では、役所の備品を廃棄したものとみられる陶磁器が出土している。出土した陶磁器は厚手の碗が多く、土器の火鉢類や陶器の土瓶等もよく見られる。





高台内の釘書「木」





高台内の釘書「木」





高台内の釘書「木」

# 121. 陶器 碗 玉泉院丸

肥前の陶胎染付碗で、いずれも高台内に「木」と釘書きされている。「木」と記されるのは、露地役所に詰めて庭園の維持管理を担った手木足軽に関連したものとみられる。なお、上・中段のものは法量や文様構成から揃いと考えられる。



高台内の墨書「木 十ノニヵ」





高台側面の墨書(合成) 「御手木頭二十番之内ヵ」

## 122. 陶器 碗

玉泉院丸

萩の陶器で開口碗。高台内および側面に墨書されており、側面の墨書の「御手木」の文字から、露地役所に詰めて庭園の維持管理を担った手木足軽が使用したものと考えられる。





高台内の墨書「木□□」

## 123. 陶器 碗

玉泉院丸

トビガンナ文様が施された陶器の腰錆 茶碗で、高台内に墨書されている。



124. 陶器 碗 玉泉院丸 京・信楽系の灰釉陶器で、高台内に「木」と 墨書されている。高台内中央部に付着した釉

のため、その部分には墨が乗っていない。

高台内の墨書「木」



125. 陶器 碗 玉泉院丸 京・信楽系の陶器で、透明釉に 口縁部内外に緑釉を重ね掛ける イトメ碗である。



126. 陶器 碗 玉泉院丸 在地の陶器碗で、高台内に 「村松」と墨書されている。



高台内の墨書「村松」





外底面の墨書「御手木」

## 127. 土器 火鉢

玉泉院丸

口縁部墨塗り、胴部〜底裾にかけて赤彩・褐色漆塗り される。外側面に菊花の印花文が施される。外底面に 「御手木」と墨書されており、手木足軽の使用品であ ることを示すと考えられる。



## 128. 陶器 土瓶

玉泉院丸

灰釉陶器で、体部外面は平行沈線を施した 上に白泥を刷毛で縦に流し掛け、鉄絵で梅 の花を描いている。







## 129. 陶器 土瓶蓋

玉泉院丸

山水土瓶の蓋である。白泥を塗った 上に鉄絵と染付で文様が描かれる。

## 三十間長屋と御鳥部屋 -

#### ◆陶磁器

本丸附段は、発掘調査によると、寛永8年(1631)の大火までは、御殿の生活を支える奥向きの一角だったとみられる。寛永大火後に御殿が二ノ丸に移されると、三十間長屋など数棟が建つばかりの広場となった。この頃建てられた初代の三十間長屋は、台所方の管轄で、宝暦9年(1759)の大火で焼失したが、周辺の発掘調査から出土した被災資料の多くが肥前磁器製品(大皿など)で、食膳具を保管していたことがうかがえる。



130. 磁器 大皿・皿 本丸附段 肥前磁器の染付および色絵の大皿と皿。 溶解した鉛瓦が釉薬状に付着したもの も見られる。



131. 磁器 瓶 本丸附段 肥前磁器染付。溶解した鉛瓦 が釉薬状に付着している。



132. 陶器 鉢 本丸附段 いずれも肥前陶器である。

陶器製のものには、口縁部付近につまみが1箇所 付いている。磁器のものは平面半円形で、裏面に

は逆三角形のつまみが2箇所付く。

#### ◆鳥の餌入れ

鳥の餌入れ(餌猪口)は、つまみ部を鳥籠のひごや止まり木などにかけて使ったと考えられ、絵図や文献に見える庭園の整備などに携わっていた玉泉院丸「御露地役所」の「御鳥部屋」で用いられていたと考えられる。使用時期としては、いずれも19世紀代中葉、幕末に近い頃を想定している。



## 庭園関連の出土品 ——

本丸と玉泉院丸の調査で、池跡など庭園に関する遺構が確認され、石造物や景石など、庭園で使用されたとみられる石材が出土した。石造物には、坪野石(溶結凝灰岩)が使用されている。坪野石製の石造物や石垣石材は、金沢城では庭園とその周辺に認められる。







本丸庭園 石造物・景石出土状況

## 134. 本丸庭園の石造物 <sub>本丸</sub>

円柱状のものは、一端に直方体の枘を持ち、枘が遺存する反対側は折損しており、石橋橋脚などの可能性がある。



円柱状の石造物

#### 135. 玉泉院丸庭園の石造物 <sub>玉泉院丸</sub>

水鉢は青戸室石製で、片口状を呈する。

灯籠中台は赤戸室石製で、上面と下面に枘穴が穿たれており、灯篭の竿や火袋を接続したものと考えられる。 円柱状の石造物は青戸室石製で、その一端に直方体の枘を持つ。枘が遺存する反対側は折損している。本丸の事例と同じく、石橋橋脚などの可能性がある。

敷石

敷石は坪野石製で、ノミ痕跡を残す側面が3面あり、三 角形の板状の形を呈していた可能性がある。



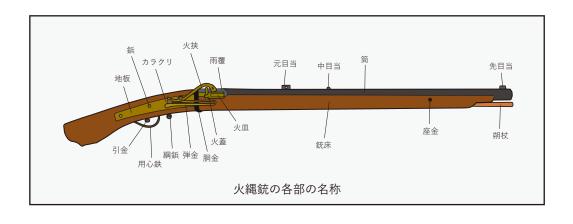
136. 線刻文様のある瓦 玉泉院丸 唐草文が陰刻されている。庭園内の建造物に 使用されたと考えられる。

## 鏃と鉄砲部品 -

五十間長屋の調査では、長屋に保管されていた鏃が数点出土している。また、鉄砲所の発掘調査で、「細工所」に相当する箇所から、鉄砲鍛冶工房と考えられる遺構が検出され、洋式銃に改造する際廃棄された火縄銃の部品や、銃身の加工により生じた鍛造剥片などが多数出土しており、当時の緊迫した状況がうかがえる。



140. 用心金 三ノ丸(鉄砲所) 引金が不本意に動作しないための保護 器具。引金の周りに付けられる。





ゼンマイバネ

弾金 (バネ)





143. 胴金 三ノ丸 (鉄砲所) 筒 (銃身)を台 (銃床)に 固定する部品。





142. 発射装置 (カラクリ) 部品 三ノ丸 (鉄砲所)

144. 雨覆三ノ丸(鉄砲所)火皿に雨水の侵入を防ぐ部品。



146. 火蓋 三ノ丸(鉄砲所) 火皿を覆う安全装置。



145. 煙返し 三ノ丸 (鉄砲所) 雨覆に接着される部品。



元目当



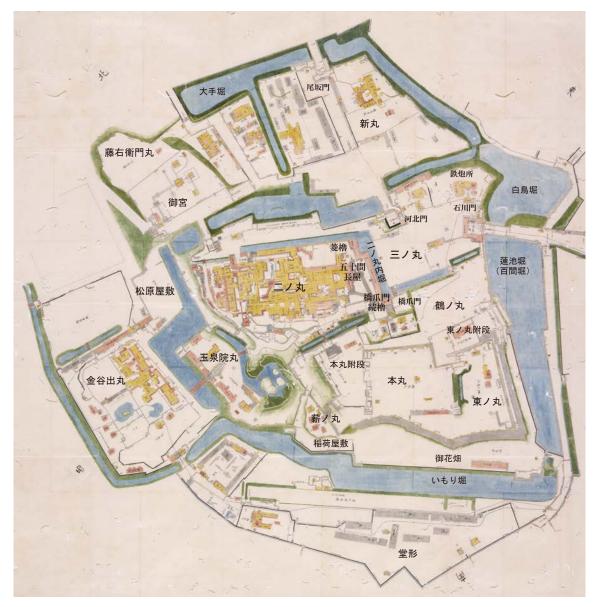
先目当

148. 筒 (銃身) 三ノ丸 (鉄砲所)

147. 目当 三ノ丸(鉄砲所) 標的を定める照準装置。銃身の手前側に 設置されているものが元目当で、先端側 のものを先目当という。



鉄砲所 鍛冶関連遺構



「御城中壱分碁絵図」(加筆) 横山隆昭氏蔵

文政13年(1830)

## 金沢城略年表

天正 8 1580	佐久間盛政が入城、土塁や堀を整備	宝暦 9 1759	宝暦の大火 城内の主要部が全焼
天正 11 1583	前田利家が入城(以降前田家 14 代の居城となる)	安永元 1772	河北門の再建
天正 14 1586	天守造営	天明 8 1788	石川門の再建
文禄 元 1592	戸室石を採掘し、本格的に石垣築造を開始	文化 5 1808	二ノ丸御殿が焼失
慶長 7 1602	落雷により天守焼失	嘉永元 1848	金沢城土蔵 (鶴丸倉庫) 造営
元和 6 1620	本丸焼失、翌年本丸を拡張し御殿を再建	安政 5 1858	三十間長屋を再建
寛永 8 1631	寛永の大火 城下から出火し城内も延焼	明治 4 1871	兵部省(のちの陸軍省)に所管替え
	縄張りを改め、拡張した二ノ丸に御殿を建設	明治 14 1881	二ノ丸御殿焼失
寛永 9 1632	辰巳用水を開削し城内に引水	昭和24 1949	金沢大学として利用
寛永 11 1634	玉泉院丸に庭園を造営	平成 8 1996	石川県が金沢大学跡地を取得、公園整備に着手
寛永 20 1643	城内に東照宮を造営	平成13 2001	金沢城公園供用開始
寛文 2 1662 ~11 1671	城内各所で石垣修築(長雨や地震による被災)	平成 20 2008	国史跡に指定

#### 掲載資料一覧

	#A5417 52				
	遺物 石造物 金沢大学資料館蔵	出土地点 本丸、御宮	寸法 (cm) 高:44.0/20.7/14.0/17.0		掲載番号 写真20~23
	石造物	本丸附段	長14.6 幅14.8		S005
	石造物	菱櫓	長20.3 幅19.1 厚15.6 側面孔6.5×7.5		S053
	火葬人骨	藤右衛門丸	及20.3 幅17.1 序15.0 圆面10.5 ~ 7.5	14	3033
4	八	際有相门凡	口径13.2/10.0/14.0/22.0/11.4	14	
				22	1~21.25.26.28
5	新丸下層出土陶磁器	新丸	底径2.4/6.8/7.2/6.6/5.2 他		
			口径 底径 器高:13.2 4.7 4.7/14.8 5.8	11	P119·121·123
			6.9/10.6 5.5 2.6		
					Fig.304-2·5·7~11·13·16·17·
6	白鳥堀下層出土陶磁器	白鳥堀	口径12.2 器高2.8 他	34	20~24·30·32·33,Fig.305-1·3·
					4.10.12
7	金属加工関連遺物	新丸、白鳥堀		22	
'	並周加工医理思物	利凡、口局畑		34	Fig.328-1·5·6
_	A Advant (day 1 and)		瓦当径4.3 他	2	T39·40
8	金箔瓦(軒丸瓦)	本丸附段、本丸南堀		15	T462
9	金箔瓦(軒平瓦)	本丸南堀	下幅11.4 他	15	T465~467
_	金箔瓦(鯱瓦)	本丸南堀	長12.65 幅9.4 厚9.6		T475
_	金箔瓦(器種不明)	本丸南堀	X12.00 m.1 />.0		T477
- 11	並行だ(時達工がり)	44761737di	上弧幅12.5 他		T89·91
			長12.65 幅9.4 厚9.6		T104
10	軒平瓦(桐文)	本丸附段、二ノ丸内堀、河北門、			
12	#1 下Д(門又)	玉泉院丸、本丸南堀	瓦当厚2.0 体部厚1.9		T145
			上弧幅15.3		T6
<u> </u>			下幅11.4 他		T465~T468
13	丸瓦	本丸附段、本丸南堀	幅16.8		T004
			長31.7 幅15.3		T479
14	平瓦	本丸附段	長31.0 幅26.5	2	T189
			長24.7 幅27.1/長19.0 幅28.1	3	T82·84
15	軒平瓦(三葉文)	本丸附段、河北門、石川門前土橋	上弧幅25.3	14	T063
			上弧幅24.8/上弧幅18.2 他	33	Fig.62-5,141-2,142-2,143-3
			上弧幅26.9		T96
16	軒平瓦(花文)	本丸附段、河北門	長25.4 幅27.0 他		T61.62.76
			瓦当径12.3/16.6		T24·36
17	軒丸瓦(巴文)	本丸、本丸附段、河北門	瓦当径15.1 全長33.3 体部幅26.3 他		T38·43
			瓦当厚4.9		T091
18	軒平瓦(垂下型三葉文・五葉文)	玉泉院丸 石川門前土橋	瓦当厚:4.5/5.0/4.7		Fig.62-11,144-1·7
10	4 T	++ 1/1 5/1			T115·139
_	丸瓦	本丸附段	長幅:27.9 14.6/33.1 16.4		
20	平瓦	本丸附段	長幅:26.1 19.5/21.6 22.3/25.1 25.9		T170·179·185
0.4	der I are	7 0 % L 7 W 8 % L K	瓦当径17.0		2041
21	軒丸瓦	玉泉院丸、石川門前土橋	瓦当径:17.0/18.0/17.5/16.4 他		T13·19·20·23·25
			瓦当径17.7 他	33	Fig.61-1·2
22	軒丸瓦 (公財) 石川県埋蔵文化財セ	堂形	瓦当径16.0	28	Т2
	ンター蔵				
			上弧幅20.6		T56
23	軒平瓦	本丸附段、玉泉院丸、いもり堀	長10.0		T004
			上弧幅28.4 他	29	T78·79
24	腰瓦	いもり堀	長29.2 幅29.1	15	T426
25	腰瓦	二ノ丸内堀	長28.1	5	T124
26	銅釘(貝折釘)	二ノ丸内堀	長:14.0/9.8/8.4	5	M085·090·104
27	腰瓦	玉泉院丸	長29.1 幅28.85	17	2084
28	腰瓦	二ノ丸内堀	長26.8	5	T046
	海鼠漆喰	玉泉院丸	長15.05 幅5.7 厚2.7		6004
	軒丸瓦	いもり堀	瓦当径:16,4/15.2/15.3/16.7	15	T263~266
			上弧幅27.2 下幅25.5 他		T58·103
		本丸附段、東ノ丸、河北門、御宮、い		-	T051
31	軒平瓦	もり堀			
		A NAME OF THE PROPERTY OF THE	長 幅:29.4 26.5/25.95 26.2/30.75 26.0	15	T279~281
22	丸瓦	いもり堀	長27.7 幅17.4	15	T296
_		いもり堀			T291
_	丸瓦		長28.45 幅14.15		
_	平瓦	本丸附段	長31.6 幅26.9	-	T191
_	平瓦	いもり堀	長31.1 幅26.6		T313
	熨斗瓦	いもり堀	長30.1 幅14.8		T257
	鬼瓦・鳥衾	御宮	長48.3 高43.8/長27.1 幅12.5		S006·007
	軒丸瓦	御宮	瓦当径11.55 長14.3 幅2.85		S009
	軒丸瓦	御宮	瓦当径12.5 長14.0		S010
	軒平瓦	御宮	上弧幅17.0 長17.0		S011
41	軒平瓦	御宮	長25.6 幅29.8	14	S012
42	掛瓦(箕甲瓦)	御宮	小丸部径13.7 長36.8~41.0 幅25.6	14	S008
	丸瓦	御宮	長47.2 幅14.5	14	S017
	丸瓦	御宮	長24.8 幅14.3		S038
	平瓦	御宮	長53,4 幅31.1		S045
		r			
45		御宮	長54.8 幅31.0	1.4	15047
45 46	平瓦	御宮	長54.8 幅31.0 長55.8 幅35.8		S042 S064
45 46 47		<ul><li>御宮</li><li>御宮</li></ul>	長54.8 幅31.0 長55.8 幅35.8 長41.1 幅41.9	14	S064 S065

	Sales d.C.	dr. I. bl. le	DE ( )	ATT IIb.	till det of til
_	遺物	出土地点	寸法 (cm)		掲載番号
_	棟瓦	御宮	長 幅:102.3 22.2/93.0 21.8		S071·074
_	軒丸瓦	東ノ丸附段	長17.2 幅16.8		M14
51	軒丸瓦	二ノ丸内堀	瓦当径12.0	5	M061
52	軒丸瓦	いもり堀	長16.7 幅17.2	15	M010
53	銅釘	二ノ丸内堀	長:2.5/2.3	5	M146·150
54	軒平瓦	河北門	上弧幅25.6 長5.2 狭端幅24.4	3	M1
_	軒平瓦	河北門	上弧幅24.0 長5.3		M2
_	軒平瓦	いもり堀	長5.0 幅19.5 他		M014~016
30	#1 十五	V · O J //II			
	der 1 - e-		瓦当径16.1		T065
57	軒丸瓦	二ノ丸内堀、玉泉院丸	瓦当径15.3		T49
			瓦当径16.1 長28.6 幅16.0	30	T016
58	軒平瓦	玉泉院丸	長 幅:25.0 25.9/26.5 24.6 他	29	T97.99.103
59	軒平瓦	玉泉院丸	長26.5 幅25.4	29	T111
_	軒桟瓦	玉泉院丸	幅31.4		T219
			· ·		T048
_	軒桟瓦	御宮	瓦当厚4.5		
62	軒桟瓦	玉泉院丸	長31.4		T133
63	軒平瓦、軒桟瓦	二ノ丸内堀、玉泉院丸	小丸径8.9	5	T015
0.5	+1 1 20、+11220		長:25.55/28.3	13	T189·194
			長 幅:24.4 30.4/17.4 20.8	13	T025·026
			上弧幅25.0 長25.8	14	T030
64	軒桟瓦	本丸附段 三ノ丸 玉泉院丸	長30.4 幅28.1		T24
			交30.4 帽26.1		
					T135
_	丸瓦	本丸附段	長30.4 幅14.3		T024
66	平瓦	玉泉院丸	長31.2 幅25.4	13	T045
67	栈瓦	玉泉院丸	長31.1 幅30.5	13	T056
	巴瓦	玉泉院丸	長21.8 幅10.4		T029
	谷丸瓦	玉泉院丸	長16~35 幅14.9		T153
_					
_	谷筋違い瓦	玉泉院丸	長40.1 幅31.2		T067
	棟瓦	玉泉院丸	長25.8 幅28.6		T077
72	棟瓦	橋爪門	長29.2 幅23.7	9	T129
73	熨斗瓦	玉泉院丸	長25.3 幅23.3	29	T164
_	熨斗瓦	玉泉院丸	長23.7 幅11.5		T166
_	面戸瓦	玉泉院丸	長10.9 幅22.9		T105
_					
_	面戸瓦	玉泉院丸	幅・上16.2 高3.85		T161
77	棟込瓦(輪違)	玉泉院丸	長21.4 幅26.05	13	T075
78	棟込瓦(輪違)	玉泉院丸	長11.85 幅12.6	13	T076
79	大型部材	本丸南堀	長474.3 幅29.0 厚33.5	15	W027
	橋脚	二ノ丸内堀	長70.6 幅28.4 厚28.9	5	W105
		. 7 01 4 //4			
_	烟干	一 7 カ 内堀	E07 / 恒1Q 1 回10 2	5	W104
_	欄干	二ノ丸内堀	長92.4 幅18.1 厚19.3	5	W104
81	欄干 鉄釘			5 5	M169·173·175~177·190·192·
81		二ノ丸内堀 二ノ丸内堀、五十間長屋	長92.4 幅18.1 厚19.3 長:14.5/5.3/10.8/8.3/7.7/13.9/8.5/5.5		M169·173·175~177·190·192· 196
81			長:14.5/5.3/10.8/8.3/7.7/13.9/8.5/5.5		M169·173·175~177·190·192·
81			長:14.5/5.3/10.8/8.3/7.7/13.9/8.5/5.5 長:14.0/13.6/13.3/9.8/9.8/9.8/9.6/	5	M169·173·175~177·190·192· 196
81	鉄釘	二ノ丸内堀、五十間長屋	長:14.5/5.3/10.8/8.3/7.7/13.9/8.5/5.5	5	M169·173·175~177·190·192· 196 M085·086·088·090·092·093· 095·106·109·110·112·114·
81 82 83	鉄釘 銅釘	二ノ丸内堀、五十間長屋 二ノ丸内堀、五十間長屋	長:14.5/5.3/10.8/8.3/7.7/13.9/8.5/5.5 長:14.0/13.6/13.3/9.8/9.8/9.8/9.6/ 7.8/7.7/7.3/4.3/4.1/2.5/2.3	5	M169·173·175~177·190·192· 196 M085·086·088·090·092·093· 095·106·109·110·112·114· 146·150
81 82 83 84	<b>鉄釘</b> 銅釘 鎹	二ノ丸内堀、五十間長屋 二ノ丸内堀、五十間長屋 二ノ丸内堀、菱櫓	長:14.5/5.3/10.8/8.3/7.7/13.9/8.5/5.5 長:14.0/13.6/13.3/9.8/9.8/9.8/9.6/ 7.8/7.7/7.3/4.3/4.1/2.5/2.3 長 幅:63.7 18.8/21.4 6.2/16.7 5.6	5 5	M169·173·175~177·190·192· 196 M085·086·088·090·092·093· 095·106·109·110·112·114· 146·150 M208·211·225
81 82 83 84	鉄釘 銅釘	二ノ丸内堀、五十間長屋 二ノ丸内堀、五十間長屋	長:14.5/5.3/10.8/8.3/7.7/13.9/8.5/5.5 長:14.0/13.6/13.3/9.8/9.8/9.8/9.6/ 7.8/7.7/7.3/4.3/4.1/2.5/2.3 長 幅:63.7 18.8/21.4 6.2/16.7 5.6 長 幅:24.7 8.7/11.5 4.6	5 5	M169·173·175~177·190·192· 196 M085·086·088·090·092·093· 095·106·109·110·112·114· 146·150
81 82 83 84 85	鉄釘 銅釘 鎹 目鎹	二ノ丸内堀、五十間長屋 二ノ丸内堀、五十間長屋 二ノ丸内堀、菱櫓 二ノ丸内堀	長:14.5/5.3/10.8/8.3/7.7/13.9/8.5/5.5 長:14.0/13.6/13.3/9.8/9.8/9.8/9.6/ 7.8/7.7/7.3/4.3/4.1/2.5/2.3 長 幅:63.7 18.8/21.4 6.2/16.7 5.6	5 5 5 5	M169·173·175~177·190·192· 196 M085·086·088·090·092·093· 095·106·109·110·112·114· 146·150 M208·211·225 M226·242
81 82 83 84 85	<b>鉄釘</b> 銅釘 鎹	二ノ丸内堀、五十間長屋 二ノ丸内堀、五十間長屋 二ノ丸内堀、菱櫓	長:14.5/5.3/10.8/8.3/7.7/13.9/8.5/5.5 長:14.0/13.6/13.3/9.8/9.8/9.8/9.6/ 7.8/7.7/7.3/4.3/4.1/2.5/2.3 長 幅:63.7 18.8/21.4 6.2/16.7 5.6 長 幅:24.7 8.7/11.5 4.6	5 5 5 5	M169·173·175~177·190·192· 196 M085·086·088·090·092·093· 095·106·109·110·112·114· 146·150 M208·211·225
81 82 83 84 85 86	鉄釘 銅釘 鎹 目鎹 金具	二ノ丸内堀、五十間長屋 二ノ丸内堀、五十間長屋 二ノ丸内堀、菱櫓 二ノ丸内堀	長:14.5/5.3/10.8/8.3/7.7/13.9/8.5/5.5 長:14.0/13.6/13.3/9.8/9.8/9.8/9.6/ 7.8/7.7/7.3/4.3/4.1/2.5/2.3 長 幅:63.7 18.8/21.4 6.2/16.7 5.6 長 幅:24.7 8.7/11.5 4.6 長 幅 厚:34.2 4.1 2.8/4.0 2.7 1.9/8.2	5 5 5 5	M169·173·175~177·190·192· 196 M085·086·088·090·092·093· 095·106·109·110·112·114· 146·150 M208·211·225 M226·242
81 82 83 84 85 86	鉄釘 銅釘 鎹 目鎹	二ノ丸内堀、五十間長屋 二ノ丸内堀、五十間長屋 二ノ丸内堀、菱櫓 二ノ丸内堀 二ノ丸内堀、五十間長屋、菱櫓 二ノ丸	長:14.5/5.3/10.8/8.3/7.7/13.9/8.5/5.5 長:14.0/13.6/13.3/9.8/9.8/9.8/9.6/ 7.8/7.7/7.3/4.3/4.1/2.5/2.3 長 幅:63.7 18.8/21.4 6.2/16.7 5.6 長 幅:24.7 8.7/11.5 4.6 長 幅 厚:34.2 4.1 2.8/4.0 2.7 1.9/8.2	5 5 5 5	M169·173·175~177·190·192· 196 M085·086·088·090·092·093· 095·106·109·110·112·114· 146·150 M208·211·225 M226·242
81 82 83 84 85 86 87 88	鉄釘 銅釘 鎹 目鎹 金具 釘隠(金沢大学資料館蔵)	二ノ丸内堀、五十間長屋 二ノ丸内堀、五十間長屋 二ノ丸内堀、菱櫓 二ノ丸内堀 エノ丸内堀 エノ丸内堀、五十間長屋、菱櫓 二ノ丸 二ノ丸	長:14.5/5.3/10.8/8.3/7.7/13.9/8.5/5.5 長:14.0/13.6/13.3/9.8/9.8/9.8/9.6/ 7.8/7.7/7.3/4.3/4.1/2.5/2.3 長幅:63.7 18.8/21.4 6.2/16.7 5.6 長幅:24.7 8.7/11.5 4.6 長幅 厚:34.2 4.1 2.8/4.0 2.7 1.9/8.2 0.6 1.0 他	5 5 5 5 5	M169·173·175~177·190·192· 196 M085·086·088·090·092·093· 095·106·109·110·112·114· 146·150 M208·211·225 M226·242 M78~083
81 82 83 84 85 86 87 88 89	鉄釘 銅釘 鎹 目鎹 金具 釘隠(金沢大学資料館蔵) 金槌 ノミ	ニノ丸内堀、五十間長屋 ニノ丸内堀、五十間長屋 ニノ丸内堀、菱櫓 ニノ丸内堀 エノ丸内堀、五十間長屋、菱櫓 ニノ丸内堀、五十間長屋、菱櫓 ニノ丸	長:14.5/5.3/10.8/8.3/7.7/13.9/8.5/5.5 長:14.0/13.6/13.3/9.8/9.8/9.8/9.6/ 7.8/7.7/7.3/4.3/4.1/2.5/2.3 長 幅:63.7 18.8/21.4 6.2/16.7 5.6 長 幅:24.7 8.7/11.5 4.6 長 幅 厚:34.2 4.1 2.8/4.0 2.7 1.9/8.2 0.6 1.0 他 柄長29.45 柄幅2.1 頭幅2.1 頭厚2.0 長24.2 幅2.7 厚2.4	5 5 5 5 5	M169·173·175~177·190·192· 196 M085·086·088·090·092·093· 095·106·109·110·112·114· 146·150 M208·211·225 M226·242 M78~083 M053 M054
81 82 83 84 85 86 87 88 89 90	鉄釘 鋼釘 鎹 目鎹 金具 <u>釘隠(金沢大学資料館蔵)</u> 金槌 ノミ 矢	二ノ丸内堀、五十間長屋 二ノ丸内堀、五十間長屋 二ノ丸内堀、菱櫓 二ノ丸内堀 こノ丸内堀 エノ丸内堀 エノ丸内堀 エノ丸内堀 ボーノ丸 ニノ丸内堀 橋爪門続櫓 五十間長屋	長:14.5/5.3/10.8/8.3/7.7/13.9/8.5/5.5  長:14.0/13.6/13.3/9.8/9.8/9.8/9.6/ 7.8/7.7/7.3/4.3/4.1/2.5/2.3  長 幅:63.7 18.8/21.4 6.2/16.7 5.6  長 幅:24.7 8.7/11.5 4.6  長 幅 厚:34.2 4.1 2.8/4.0 2.7 1.9/8.2 0.6 1.0 他  柄長29.45 柄幅2.1 頭幅2.1 頭厚2.0  長24.2 幅2.7 厚2.4  長15.5 幅4.0 厚2.7	5 5 5 5 5 5 5	M169·173·175~177·190·192· 196 M085·086·088·090·092·093· 095·106·109·110·112·114· 146·150 M208·211·225 M226·242 M78~083 M053 M054 M055
81 82 83 84 85 86 87 88 89 90	鉄釘 銅釘 鎹 目鎹 金具 釘隠(金沢大学資料館蔵) 金槌 ノミ	ニノ丸内堀、五十間長屋 ニノ丸内堀、五十間長屋 ニノ丸内堀、菱櫓 ニノ丸内堀 エノ丸内堀、五十間長屋、菱櫓 ニノ丸内堀、五十間長屋、菱櫓 ニノ丸	長:14.5/5.3/10.8/8.3/7.7/13.9/8.5/5.5 長:14.0/13.6/13.3/9.8/9.8/9.8/9.6/ 7.8/7.7/7.3/4.3/4.1/2.5/2.3 長 幅:63.7 18.8/21.4 6.2/16.7 5.6 長 幅:24.7 8.7/11.5 4.6 長 幅 厚:34.2 4.1 2.8/4.0 2.7 1.9/8.2 0.6 1.0 他 柄長29.45 柄幅2.1 頭幅2.1 頭厚2.0 長24.2 幅2.7 厚2.4	5 5 5 5 5 5 5	M169·173·175~177·190·192· 196 M085·086·088·090·092·093· 095·106·109·110·112·114· 146·150 M208·211·225 M226·242 M78~083 M053 M054
81 82 83 84 85 86 87 88 89 90	鉄釘 銅釘 鎹 目鎹 金具 釘隠 (金沢大学資料館蔵) 金槌 ノミ 矢 敷金 (17世紀後半)	ニノ丸内堀、五十間長屋 ニノ丸内堀、五十間長屋 ニノ丸内堀、菱櫓 ニノ丸内堀 エナ間長屋、菱櫓 ニノ丸内堀、五十間長屋、菱櫓 ニノ丸 ニノ丸内堀 橋爪門続櫓 五十間長屋 菱櫓	長:14.5/5.3/10.8/8.3/7.7/13.9/8.5/5.5  長:14.0/13.6/13.3/9.8/9.8/9.8/9.6/ 7.8/7.7/7.3/4.3/4.1/2.5/2.3  長 幅:63.7 18.8/21.4 6.2/16.7 5.6  長 幅:24.7 8.7/11.5 4.6  長 幅:24.7 8.7/11.5 4.0  長 幅 厚:34.2 4.1 2.8/4.0 2.7 1.9/8.2 0.6 1.0 他  柄長29.45 柄幅2.1 頭幅2.1 頭厚2.0  長24.2 幅2.7 厚2.4  長15.5 幅4.0 厚2.7  長 幅:16.0 13.4/12.8 9.3	5 5 5 5 5 5 5 5	M169·173·175~177·190·192· 196 M085·086·088·090·092·093· 095·106·109·110·112·114· 146·150 M208·211·225 M226·242 M78~083 M053 M054 M055 M312·319
81 82 83 84 85 86 87 88 89 90	鉄釘 鋼釘 鎹 目鎹 金具 <u>釘隠(金沢大学資料館蔵)</u> 金槌 ノミ 矢	二ノ丸内堀、五十間長屋 二ノ丸内堀、五十間長屋 二ノ丸内堀、菱櫓 二ノ丸内堀 こノ丸内堀 エノ丸内堀 エノ丸内堀 エノ丸内堀 ボーノ丸 ニノ丸内堀 橋爪門続櫓 五十間長屋	長:14.5/5.3/10.8/8.3/7.7/13.9/8.5/5.5  長:14.0/13.6/13.3/9.8/9.8/9.8/9.6/ 7.8/7.7/7.3/4.3/4.1/2.5/2.3  長 幅:63.7 18.8/21.4 6.2/16.7 5.6  長 幅:24.7 8.7/11.5 4.6  長 幅 厚:34.2 4.1 2.8/4.0 2.7 1.9/8.2 0.6 1.0 他  柄長29.45 柄幅2.1 頭幅2.1 頭厚2.0  長24.2 幅2.7 厚2.4  長15.5 幅4.0 厚2.7	5 5 5 5 5 5 5 5	M169·173·175~177·190·192· 196 M085·086·088·090·092·093· 095·106·109·110·112·114· 146·150 M208·211·225 M226·242 M78~083 M053 M054 M055
81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91	鉄釘 銅釘 鎹 目鎹 金具 釘隠 (金沢大学資料館蔵) 金槌 ノミ 矢 敷金 (17世紀後半)	二ノ丸内堀、五十間長屋 二ノ丸内堀、五十間長屋 二ノ丸内堀、菱櫓 二ノ丸内堀、五十間長屋、菱櫓 二ノ丸内堀、五十間長屋、菱櫓 二ノ丸 ニノ丸内堀 橋爪門続櫓 五十間長屋 菱櫓 河北門	長:14.5/5.3/10.8/8.3/7.7/13.9/8.5/5.5  長:14.0/13.6/13.3/9.8/9.8/9.8/9.6/ 7.8/7.7/7.3/4.3/4.1/2.5/2.3  長 幅:63.7 18.8/21.4 6.2/16.7 5.6  長 幅:24.7 8.7/11.5 4.6  長 幅 厚:34.2 4.1 2.8/4.0 2.7 1.9/8.2 0.6 1.0 他  柄長29.45 柄幅2.1 頭幅2.1 頭厚2.0 長24.2 幅2.7 厚2.4  長15.5 幅4.0 厚2.7  長 幅:16.0 13.4/12.8 9.3  長 幅:7.6 3.1/7.3 3.8/7.4 19.0	5 5 5 5 5 5 5 5 5 3	M169·173·175~177·190·192· 196 M085·086·088·090·092·093· 095·106·109·110·112·114· 146·150 M208·211·225 M226·242 M78~083 M053 M054 M055 M312·319 M31·33·34
81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91	鉄釘 銅釘 鎹 目鎹 金具 釘隠 (金沢大学資料館蔵) 金槌 ノミ 矢 敷金 (17世紀後半)	ニノ丸内堀、五十間長屋 ニノ丸内堀、五十間長屋 ニノ丸内堀、菱櫓 ニノ丸内堀 エナ間長屋、菱櫓 ニノ丸内堀、五十間長屋、菱櫓 ニノ丸 ニノ丸内堀 橋爪門続櫓 五十間長屋 菱櫓	長:14.5/5.3/10.8/8.3/7.7/13.9/8.5/5.5  長:14.0/13.6/13.3/9.8/9.8/9.8/9.6/ 7.8/7.7/7.3/4.3/4.1/2.5/2.3  長 幅:63.7 18.8/21.4 6.2/16.7 5.6  長 幅:24.7 8.7/11.5 4.6  長 幅:24.7 8.7/11.5 4.0  長 幅 厚:34.2 4.1 2.8/4.0 2.7 1.9/8.2 0.6 1.0 他  柄長29.45 柄幅2.1 頭幅2.1 頭厚2.0  長24.2 幅2.7 厚2.4  長15.5 幅4.0 厚2.7  長 幅:16.0 13.4/12.8 9.3	5 5 5 5 5 5 5 5 5 3	M169·173·175~177·190·192· 196 M085·086·088·090·092·093· 095·106·109·110·112·114· 146·150 M208·211·225 M226·242 M78~083 M053 M054 M055 M312·319
81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91	鉄釘 銅釘 鎹 目鎹 金具 釘隠 (金沢大学資料館蔵) 金槌 ノミ 矢 敷金 (17世紀後半)	二ノ丸内堀、五十間長屋 二ノ丸内堀、五十間長屋 二ノ丸内堀、菱櫓 二ノ丸内堀、五十間長屋、菱櫓 二ノ丸内堀、五十間長屋、菱櫓 二ノ丸 ニノ丸内堀 橋爪門続櫓 五十間長屋 菱櫓 河北門	長:14.5/5.3/10.8/8.3/7.7/13.9/8.5/5.5 長:14.0/13.6/13.3/9.8/9.8/9.8/9.6/ 7.8/7.7/7.3/4.3/4.1/2.5/2.3 長 幅:63.7 18.8/21.4 6.2/16.7 5.6 長 幅:24.7 8.7/11.5 4.6 長 幅 厚:34.2 4.1 2.8/4.0 2.7 1.9/8.2 0.6 1.0 他 柄長29.45 柄幅2.1 頭幅2.1 頭厚2.0 長24.2 幅2.7 厚2.4 長15.5 幅4.0 厚2.7 長 幅:16.0 13.4/12.8 9.3 長 幅:7.6 3.1/7.3 3.8/7.4 19.0 長 幅:23.7 7.4/20.8 8.5/23.5 8.5	5 5 5 5 5 5 5 5 5 3	M169·173·175~177·190·192· 196 M085·086·088·090·092·093· 095·106·109·110·112·114· 146·150 M208·211·225 M226·242 M78~083 M053 M054 M055 M312·319 M31·33·34
81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92	鉄釘 銅釘 鎹 目鎹 金具 釘隠 (金沢大学資料館蔵) 金槌 ノミ 矢 敷金 (17世紀後半)	二ノ丸内堀、五十間長屋 二ノ丸内堀、五十間長屋 二ノ丸内堀、菱櫓 二ノ丸内堀、五十間長屋、菱櫓 二ノ丸内堀、五十間長屋、菱櫓 二ノ丸 ニノ丸内堀 橋爪門続櫓 五十間長屋 菱櫓 河北門	長:14.5/5.3/10.8/8.3/7.7/13.9/8.5/5.5  長:14.0/13.6/13.3/9.8/9.8/9.8/9.6/ 7.8/7.7/7.3/4.3/4.1/2.5/2.3  長 幅:63.7 18.8/21.4 6.2/16.7 5.6  長 幅:24.7 8.7/11.5 4.6  長 幅 厚:34.2 4.1 2.8/4.0 2.7 1.9/8.2 0.6 1.0 他  柄長29.45 柄幅2.1 頭幅2.1 頭厚2.0  長24.2 幅2.7 厚2.4  長15.5 幅4.0 厚2.7  長 幅:16.0 13.4/12.8 9.3  長 幅:7.6 3.1/7.3 3.8/7.4 19.0  長 幅:23.7 7.4/20.8 8.5/23.5 8.5	5 5 5 5 5 5 5 5 3	M169·173·175~177·190·192· 196 M085·086·088·090·092·093· 095·106·109·110·112·114· 146·150 M208·211·225 M226·242 M78~083 M053 M054 M055 M312·319 M31·33·34
81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93	鉄釘 銅釘 鎹 目鎹 金具 釘隠 (金沢大学資料館蔵) 金槌 ノミ 矢 敷金 (17世紀後半) 敷金 (18世紀後半) 敷金 (19世紀前半) バネ状製品	二ノ丸内堀、五十間長屋 二ノ丸内堀、五十間長屋 二ノ丸内堀、菱櫓 二ノ丸内堀、菱櫓 二ノ丸内堀、五十間長屋、菱櫓 二ノ丸内堀 橋爪門続櫓 五十間長屋 菱櫓 河北門 橋爪門続櫓	長:14.5/5.3/10.8/8.3/7.7/13.9/8.5/5.5  長:14.0/13.6/13.3/9.8/9.8/9.8/9.6/ 7.8/7.7/7.3/4.3/4.1/2.5/2.3  長 幅:63.7 18.8/21.4 6.2/16.7 5.6  長 幅:24.7 8.7/11.5 4.6  長 幅:24.7 8.7/11.5 4.0  長 幅:24.1 1.0 4.0 2.7 1.9/8.2  0.6 1.0 4.0 4.0 2.7 1.9/8.2  0.6 1.0 4.0 4.0 2.7 1.9/8.2  長 幅:21.5 幅4.0 厚2.7  長 幅:16.0 13.4/12.8 9.3  長 幅:7.6 3.1/7.3 3.8/7.4 19.0  長 幅:23.7 7.4/20.8 8.5/23.5 8.5  長 幅 厚:5.5 6. 0.6/5.2 4.9 0.8/4.7 5.0  0.7	5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5	M169·173·175~177·190·192· 196 M085·086·088·090·092·093· 095·106·109·110·112·114· 146·150 M208·211·225 M226·242 M78~083 M053 M054 M055 M312·319 M31·33·34 M243·267·296 M323~325
81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94	鉄釘 銅釘 鎹 目鎹 金具 釘隠 (金沢大学資料館蔵) 金槌 ノミ 矢 敷金 (17世紀後半) 敷金 (18世紀後半) 敷金 (19世紀前半) バネ状製品 柄鏡	二ノ丸内堀、五十間長屋 二ノ丸内堀、五十間長屋 二ノ丸内堀、菱櫓 二ノ丸内堀、菱櫓 二ノ丸内堀、五十間長屋、菱櫓 二ノ丸 ニノ丸内堀 橋爪門続櫓 五十間長屋 菱櫓 河北門 橋爪門続櫓 橋爪門続櫓 ニノ丸内堀	長:14.5/5.3/10.8/8.3/7.7/13.9/8.5/5.5  長:14.0/13.6/13.3/9.8/9.8/9.8/9.6/ 7.8/7.7/7.3/4.3/4.1/2.5/2.3  長 幅:63.7 18.8/21.4 6.2/16.7 5.6  長 幅:24.7 8.7/11.5 4.6  長 幅 厚:34.2 4.1 2.8/4.0 2.7 1.9/8.2 0.6 1.0 他  柄長29.45 柄幅2.1 頭幅2.1 頭厚2.0 長24.2 幅2.7 厚2.4 長15.5 幅4.0 厚2.7  長 幅:16.0 13.4/12.8 9.3  長 幅:7.6 3.1/7.3 3.8/7.4 19.0  長 幅:23.7 7.4/20.8 8.5/23.5 8.5  長 幅 厚:5.5 6. 0.6/5.2 4.9 0.8/4.7 5.0 0.7  長19.5(柄長4.7) 面径14.8	5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5	M169·173·175~177·190·192· 196 M085·086·088·090·092·093· 095·106·109·110·112·114· 146·150 M208·211·225 M226·242 M78~083  M053 M054 M055 M312·319 M31·33·34 M243·267·296 M323~325 M007
81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94	鉄釘 銅釘 鎹 目鎹 金具 釘隠 (金沢大学資料館蔵) 金槌 ノミ 矢 敷金 (17世紀後半) 敷金 (18世紀後半) 敷金 (19世紀前半) バネ状製品	二ノ丸内堀、五十間長屋 二ノ丸内堀、五十間長屋 二ノ丸内堀、菱櫓 二ノ丸内堀、菱櫓 二ノ丸内堀、五十間長屋、菱櫓 二ノ丸内堀 橋爪門続櫓 五十間長屋 菱櫓 河北門 橋爪門続櫓	長:14.5/5.3/10.8/8.3/7.7/13.9/8.5/5.5  長:14.0/13.6/13.3/9.8/9.8/9.8/9.6/ 7.8/7.7/7.3/4.3/4.1/2.5/2.3  長 幅:63.7 18.8/21.4 6.2/16.7 5.6  長 幅:24.7 8.7/11.5 4.6  長 幅:24.7 8.7/11.5 4.0  長 幅:24.1 1.0 4.0 2.7 1.9/8.2  0.6 1.0 4.0 4.0 2.7 1.9/8.2  0.6 1.0 4.0 4.0 2.7 1.9/8.2  長 幅:21.5 幅4.0 厚2.7  長 幅:16.0 13.4/12.8 9.3  長 幅:7.6 3.1/7.3 3.8/7.4 19.0  長 幅:23.7 7.4/20.8 8.5/23.5 8.5  長 幅 厚:5.5 6. 0.6/5.2 4.9 0.8/4.7 5.0  0.7	5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5	M169·173·175~177·190·192· 196 M085·086·088·090·092·093· 095·106·109·110·112·114· 146·150 M208·211·225 M226·242 M78~083  M053 M054 M055 M312·319 M31·33·34 M243·267·296 M323~325 M007 M018~022
81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96	鉄釘 銅釘 鎹 目鎹 金具 釘隠 (金沢大学資料館蔵) 金槌 ノミ 矢 敷金 (17世紀後半) 敷金 (18世紀後半) 敷金 (19世紀前半) バネ状製品 柄鏡	二ノ丸内堀、五十間長屋 二ノ丸内堀、五十間長屋 二ノ丸内堀、菱櫓 二ノ丸内堀、菱櫓 二ノ丸内堀、五十間長屋、菱櫓 二ノ丸 ニノ丸内堀 橋爪門続櫓 五十間長屋 菱櫓 河北門 橋爪門続櫓 橋爪門続櫓 ニノ丸内堀	長:14.5/5.3/10.8/8.3/7.7/13.9/8.5/5.5  長:14.0/13.6/13.3/9.8/9.8/9.8/9.6/ 7.8/7.7/7.3/4.3/4.1/2.5/2.3  長 幅:63.7 18.8/21.4 6.2/16.7 5.6  長 幅:24.7 8.7/11.5 4.6  長 幅 厚:34.2 4.1 2.8/4.0 2.7 1.9/8.2 0.6 1.0 他  柄長29.45 柄幅2.1 頭幅2.1 頭厚2.0 長24.2 幅2.7 厚2.4 長15.5 幅4.0 厚2.7  長 幅:16.0 13.4/12.8 9.3  長 幅:7.6 3.1/7.3 3.8/7.4 19.0  長 幅:23.7 7.4/20.8 8.5/23.5 8.5  長 幅 厚:5.5 6. 0.6/5.2 4.9 0.8/4.7 5.0 0.7  長19.5(柄長4.7) 面径14.8	5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5	M169·173·175~177·190·192· 196 M085·086·088·090·092·093· 095·106·109·110·112·114· 146·150 M208·211·225 M226·242 M78~083  M053 M054 M055 M312·319 M31·33·34 M243·267·296 M323~325 M007
81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96	鉄釘 銅釘 鎹 目総 金具 釘隠 (金沢大学資料館蔵) 金槌 ノミ 矢 敷金 (17世紀後半) 敷金 (18世紀後半) 敷金 (19世紀前半) パネ状製品 柄鏡 寛永通宝	二ノ丸内堀、五十間長屋 二ノ丸内堀、五十間長屋 二ノ丸内堀、五十間長屋 二ノ丸内堀 二ノ丸内堀 二ノ丸内堀 二ノ丸内堀 三ノ丸内堀 三ノ丸内堀 橋爪門続櫓 五十間長屋 菱櫓 河北門 橋爪門続櫓 横爪門続櫓 二ノ丸内堀 ニノ丸内堀	長:14.5/5.3/10.8/8.3/7.7/13.9/8.5/5.5  長:14.0/13.6/13.3/9.8/9.8/9.8/9.6/ 7.8/7.7/7.3/4.3/4.1/2.5/2.3  長 幅:63.7 18.8/21.4 6.2/16.7 5.6  長 幅:24.7 8.7/11.5 4.6  長 幅 厚:34.2 4.1 2.8/4.0 2.7 1.9/8.2 0.6 1.0 他	5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5	M169·173·175~177·190·192· 196 M085·086·088·090·092·093· 095·106·109·110·112·114· 146·150 M208·211·225 M226·242 M78~083  M053 M054 M055 M312·319 M31·33·34 M243·267·296 M323~325 M007 M018~022 M038
81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98	鉄釘 銅釘 鍵 目鍵 金具 釘隠 (金沢大学資料館蔵) 金帽 / ミ 矢 敷金 (17世紀後半) 敷金 (18世紀後半) 敷金 (18世紀後半) 敷金 (19世紀前半) バネ状製品 柄鏡 寛永通宝 刀 切羽	二ノ丸内堀、五十間長屋 二ノ丸内堀、五十間長屋 二ノ丸内堀、五十間長屋 二ノ丸内堀 二ノ丸内堀 二ノ丸内堀 二ノ丸内堀 二ノ丸内堀 一八丸内堀 橋爪門続櫓 五十間長屋 菱櫓 河北門 橋爪門続櫓 橋爪門続櫓 ニノ丸内堀 ニノ丸内堀 ニノ丸内堀 ニノ丸内堀 ニノ丸内堀 ニノ丸内堀	長:14.5/5.3/10.8/8.3/7.7/13.9/8.5/5.5  長:14.0/13.6/13.3/9.8/9.8/9.8/9.6/ 7.8/7.7/7.3/4.3/4.1/2.5/2.3  長 幅:63.7 18.8/21.4 6.2/16.7 5.6  長 幅:24.7 8.7/11.5 4.6  長 幅 厚:34.2 4.1 2.8/4.0 2.7 1.9/8.2 0.6 1.0 他  柄長29.45 柄幅2.1 頭幅2.1 頭厚2.0  長24.2 幅2.7 厚2.4  長15.5 幅4.0 厚2.7  長 幅:16.0 13.4/12.8 9.3  長 幅:7.6 3.1/7.3 3.8/7.4 19.0  長 幅:23.7 7.4/20.8 8.5/23.5 8.5  長 幅 厚:5.5 6. 0.6/5.2 4.9 0.8/4.7 5.0 0.7  長19.5(柄長4.7) 面径14.8  径:2.5/2.4/2.5/2.3/2.3 厚0.1  長60.4 刃長49.5 幅2.7 厚0.6  長 幅:4.0 2.4/4.0 2.3	5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5	M169·173·175~177·190·192· 196 M085·086·088·090·092·093· 095·106·109·110·112·114· 146·150 M208·211·225 M226·242 M78~083  M053 M054 M055 M312·319 M31·33·34 M243·267·296 M323~325 M007 M018~022 M038 M039·040
81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98	鉄釘 翻釘 鍵 目鍵 金具 <u>釘腿(金沢大学資料館蔵)</u> 金槌 / ミ 失 敷金 (17世紀後半) 敷金 (18世紀後半) 敷金 (18世紀後半) 敷金 (19世紀前半) バネ状製品 柄鏡 寛永通宝 刀 切羽 刀	二ノ丸内堀、五十間長屋 二ノ丸内堀、五十間長屋 二ノ丸内堀、麦櫓 二ノ丸内堀 二ノ丸内堀 二ノ丸内堀 二ノ丸内堀 三ノ丸 三ノ丸 三ノ丸内堀 橋爪門続櫓 五十間長屋 菱櫓 河北門 橋爪門続櫓 橋爪門続櫓 ニノ丸内堀 ニノ丸内堀 ニノ丸内堀 ニノ丸内堀 ニノ丸内堀 ニノ丸内堀	長:14.5/5.3/10.8/8.3/7.7/13.9/8.5/5.5  長:14.0/13.6/13.3/9.8/9.8/9.8/9.6/ 7.8/7.7/7.3/4.3/4.1/2.5/2.3  長 幅:63.7 18.8/21.4 6.2/16.7 5.6  長 幅:24.7 8.7/11.5 4.6  長 幅:9:34.2 4.1 2.8/4.0 2.7 1.9/8.2 0.6 1.0 他  树長29.45 村幅2.1 頭幅2.1 頭厚2.0  長24.2 幅2.7 厚2.4  長15.5 幅4.0 厚2.7  長 幅:16.0 13.4/12.8 9.3  長 幅:7.6 3.1/7.3 3.8/7.4 19.0  長 幅:23.7 7.4/20.8 8.5/23.5 8.5  長 幅 厚:5.5 6. 0.6/5.2 4.9 0.8/4.7 5.0 0.7  長19.5(村長4.7) 面径14.8  径:2.5/2.4/2.5/2.3/2.3 厚0.1  長60.4 列長49.5 幅2.7 厚0.6  長 幅:4.0 2.4/4.0 2.3  長74.6 幅3.8 厚2.2	5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5	M169·173·175~177·190·192· 196 M085·086·088·090·092·093· 095·106·109·110·112·114· 146·150 M208·211·225 M226·242 M78~083  M053 M054 M055 M312·319 M31·33·34  M243·267·296 M323~325 M007 M007 M018~022 M038 M039·040 M042
81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100	鉄釘 銅釘 鎹 目鍵 金具 釘隠 (金沢大学資料館蔵) 金槌 ノミ 矢 敷金 (17世紀後半) 敷金 (18世紀後半) 敷金 (19世紀前半) パネ状製品 柄鏡 寛永通宝 刀 切羽 刀 数始刻石	ニノ丸内堀、五十間長屋 ニノ丸内堀、五十間長屋 ニノ丸内堀、変櫓 ニノ丸内堀 ニノ丸内堀 ニノ丸内堀 ニノ丸内堀 ニノ丸内堀 モノ丸 西間長屋 菱櫓 河北門 橋爪門続櫓 橋爪門続櫓 橋爪門続櫓 ニノ丸内堀 ニノ丸内堀 ニノ丸内堀 ニノ丸内堀 ニノ丸内堀 ニノ丸内堀 ニノ丸内堀 ニノ丸内堀 ニノ丸内堀	長:14.5/5.3/10.8/8.3/7.7/13.9/8.5/5.5  長:14.0/13.6/13.3/9.8/9.8/9.8/9.6/ 7.8/7.7/7.3/4.3/4.1/2.5/2.3  長 幅:63.7 18.8/21.4 6.2/16.7 5.6  長 幅:24.7 8.7/11.5 4.6  長 幅 厚:34.2 4.1 2.8/4.0 2.7 1.9/8.2  0.6 1.0 他  柄長29.45 柄幅2.1 頭幅2.1 頭厚2.0  長24.2 幅2.7 厚2.4  長15.5 幅4.0 厚2.7  長 幅:16.0 13.4/12.8 9.3  長 幅:7.6 3.1/7.3 3.8/7.4 19.0  長 幅:23.7 7.4/20.8 8.5/23.5 8.5  長 幅 厚:5.5 6. 0.6/5.2 4.9 0.8/4.7 5.0  0.7  長19.5(柄長4.7) 面径14.8  径:2.5/2.4/2.5/2.3/2.3 厚0.1  長60.4 刃長49.5 幅2.7 厚0.6  長 幅4.0 2.4/4.0 2.3  長74.6 幅3.8 厚2.2  1辺15.0~16.0cm/15.0~16.5cm	5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5	M169·173·175~177·190·192· 196 M085·086·088·090·092·093· 095·106·109·110·112·114· 146·150 M208·211·225 M226·242 M78~083 M053 M054 M055 M312·319 M31·33·34 M243·267·296 M323~325 M007 M018~022 M008 M039·040 M042 S054·055
81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100 101	鉄釘 銅釘 鎹 目鍵 金具 釘隠 (金沢大学資料館蔵) 金槌 ノミ 矢 敷金 (17世紀後半) 敷金 (18世紀後半) 敷金 (19世紀前半) パネ状製品 柄鏡 寛永通宝 刀 切羽 刀 数対刻石 吸符墨書土器	ニノ丸内堀、五十間長屋 ニノ丸内堀、五十間長屋 ニノ丸内堀、変櫓 ニノ丸内堀 エノ丸内堀 ニノ丸内堀 ニノ丸内堀 ニノ丸内堀 橋爪門続櫓 五十間長屋 菱櫓 河北門 橋爪門続櫓 ニノ丸内堀	長:14.5/5.3/10.8/8.3/7.7/13.9/8.5/5.5  長:14.0/13.6/13.3/9.8/9.8/9.8/9.6/ 7.8/7.7/7.3/4.3/4.1/2.5/2.3  長 幅:63.7 18.8/21.4 6.2/16.7 5.6  長 幅:24.7 8.7/11.5 4.6  長 幅 厚:34.2 4.1 2.8/4.0 2.7 1.9/8.2  0.6 1.0 他  树長29.45 柄幅2.1 頭幅2.1 頭厚2.0  長24.2 幅2.7 厚2.4  長15.5 幅4.0 厚2.7  長 幅:16.0 13.4/12.8 9.3  長 幅:7.6 3.1/7.3 3.8/7.4 19.0  長 幅:23.7 7.4/20.8 8.5/23.5 8.5  長 幅 厚:5.5 6. 0.6/5.2 4.9 0.8/4.7 5.0  0.7  長19.5(树長4.7) 面径14.8  径:2.5/2.4/2.5/2.3/2.3 厚0.1  長60.4 刃長49.5 幅2.7 厚0.6  長 幅:40 2.4/4.0 2.3  長 福:40 2.4/4.0 2.3  長74.6 幅3.8 厚2.2  1辺15.0~16.0cm/15.0~16.5cm  口径10.0 器高2.4	5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5	M169·173·175~177·190·192· 196 M085·086·088·090·092·093· 095·106·109·110·112·114· 146·150 M208·211·225 M226·242 M78~083  M053 M054 M055 M312·319 M31·33·34  M243·267·296  M323~325 M007 M018~022 M008 M038 M039·040 M042 S054·055 P147
81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100 101	鉄釘 銅釘 鎹 目鍵 金具 釘隠 (金沢大学資料館蔵) 金槌 ノミ 矢 敷金 (17世紀後半) 敷金 (18世紀後半) 敷金 (19世紀前半) パネ状製品 柄鏡 寛永通宝 刀 切羽 刀 数始刻石	ニノ丸内堀、五十間長屋 ニノ丸内堀、五十間長屋 ニノ丸内堀、変櫓 ニノ丸内堀 ニノ丸内堀 ニノ丸内堀 ニノ丸内堀 ニノ丸内堀 モノ丸 西間長屋 菱櫓 河北門 橋爪門続櫓 橋爪門続櫓 橋爪門続櫓 ニノ丸内堀 ニノ丸内堀 ニノ丸内堀 ニノ丸内堀 ニノ丸内堀 ニノ丸内堀 ニノ丸内堀 ニノ丸内堀 ニノ丸内堀	長:14.5/5.3/10.8/8.3/7.7/13.9/8.5/5.5  長:14.0/13.6/13.3/9.8/9.8/9.8/9.6/ 7.8/7.7/7.3/4.3/4.1/2.5/2.3  長 幅:63.7 18.8/21.4 6.2/16.7 5.6  長 幅:24.7 8.7/11.5 4.6  長 幅 厚:34.2 4.1 2.8/4.0 2.7 1.9/8.2  0.6 1.0 他  柄長29.45 柄幅2.1 頭幅2.1 頭厚2.0  長24.2 幅2.7 厚2.4  長15.5 幅4.0 厚2.7  長 幅:16.0 13.4/12.8 9.3  長 幅:7.6 3.1/7.3 3.8/7.4 19.0  長 幅:23.7 7.4/20.8 8.5/23.5 8.5  長 幅 厚:5.5 6. 0.6/5.2 4.9 0.8/4.7 5.0  0.7  長19.5(柄長4.7) 面径14.8  径:2.5/2.4/2.5/2.3/2.3 厚0.1  長60.4 刃長49.5 幅2.7 厚0.6  長 幅4.0 2.4/4.0 2.3  長74.6 幅3.8 厚2.2  1辺15.0~16.0cm/15.0~16.5cm	5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5	M169·173·175~177·190·192· 196 M085·086·088·090·092·093· 095·106·109·110·112·114· 146·150 M208·211·225 M226·242 M78~083 M053 M054 M055 M312·319 M31·33·34 M243·267·296 M323~325 M007 M018~022 M008 M039·040 M042 S054·055
81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100 101	鉄釘 銅釘 鎹 目鍵 金具 釘隠 (金沢大学資料館蔵) 金槌 ノミ 矢 敷金 (17世紀後半) 敷金 (18世紀後半) 敷金 (19世紀前半) パネ状製品 柄鏡 寛永通宝 刀 切羽 刀 数対刻石 吸符墨書土器	ニノ丸内堀、五十間長屋 ニノ丸内堀、五十間長屋 ニノ丸内堀、変櫓 ニノ丸内堀 エノ丸内堀 ニノ丸内堀 ニノ丸内堀 ニノ丸内堀 橋爪門続櫓 五十間長屋 菱櫓 河北門 橋爪門続櫓 ニノ丸内堀	長:14.5/5.3/10.8/8.3/7.7/13.9/8.5/5.5  長:14.0/13.6/13.3/9.8/9.8/9.8/9.6/ 7.8/7.7/7.3/4.3/4.1/2.5/2.3  長 幅:63.7 18.8/21.4 6.2/16.7 5.6  長 幅:24.7 8.7/11.5 4.6  長 幅 厚:34.2 4.1 2.8/4.0 2.7 1.9/8.2  0.6 1.0 他  树長29.45 柄幅2.1 頭幅2.1 頭厚2.0  長24.2 幅2.7 厚2.4  長15.5 幅4.0 厚2.7  長 幅:16.0 13.4/12.8 9.3  長 幅:7.6 3.1/7.3 3.8/7.4 19.0  長 幅:23.7 7.4/20.8 8.5/23.5 8.5  長 幅 厚:5.5 6. 0.6/5.2 4.9 0.8/4.7 5.0  0.7  長19.5(树長4.7) 面径14.8  径:2.5/2.4/2.5/2.3/2.3 厚0.1  長60.4 刃長49.5 幅2.7 厚0.6  長 幅:40 2.4/4.0 2.3  長 福:40 2.4/4.0 2.3  長74.6 幅3.8 厚2.2  1辺15.0~16.0cm/15.0~16.5cm  口径10.0 器高2.4	5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5	M169·173·175~177·190·192· 196 M085·086·088·090·092·093· 095·106·109·110·112·114· 146·150 M208·211·225 M226·242 M78~083  M053 M054 M055 M312·319 M31·33·34  M243·267·296  M323~325 M007 M018~022 M008 M038 M039·040 M042 S054·055 P147
81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100 101 102	鉄釘 銅釘 鏡 目総 金具 釘隠(金沢大学資料館蔵) 金槌 ノミ 矢 敷金 (17世紀後半) 敷金 (18世紀後半) 敷金 (19世紀前半) バネ状製品 柄鏡 寛永通宝 刀 切羽 刀 鍬始刻石 吸管墨書土器 五針杵	二ノ丸内堀、五十間長屋 二ノ丸内堀、五十間長屋 二ノ丸内堀、変櫓 二ノ丸内堀 二ノ丸内堀 二ノ丸内堀 二ノ丸内堀 三ノ丸内堀 橋爪門続櫓 三ノ丸内堀 橋爪門続櫓 南爪門続櫓 本ノ丸内堀 ニノ丸内堀	長:14.5/5.3/10.8/8.3/7.7/13.9/8.5/5.5  長:14.0/13.6/13.3/9.8/9.8/9.8/9.6/ 7.8/7.7/7.3/4.3/4.1/2.5/2.3  長 幅:63.7 18.8/21.4 6.2/16.7 5.6  長 幅:24.7 8.7/11.5 4.6  長 幅 厚:34.2 4.1 2.8/4.0 2.7 1.9/8.2 0.6 1.0 他	5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5	M169·173·175~177·190·192· 196 M085·086·088·090·092·093· 095·106·109·110·112·114· 146·150 M226·242 M78~083  M053 M054 M055 M312·319 M31·33·34  M243·267·296  M323~325  M007 M018~022 M038 M039·040 M042 S054·055 P147 3004 P109·112·128·130~134·139·
81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100 101 102	鉄釘 銅釘 鎹 目鍵 金具 釘隠 (金沢大学資料館蔵) 金槌 ノミ 矢 敷金 (17世紀後半) 敷金 (18世紀後半) 敷金 (19世紀前半) パネ状製品 柄鏡 寛永通宝 刀 切羽 刀 数対刻石 吸符墨書土器	ニノ丸内堀、五十間長屋 ニノ丸内堀、五十間長屋 ニノ丸内堀、変櫓 ニノ丸内堀 エノ丸内堀 ニノ丸内堀 ニノ丸内堀 ニノ丸内堀 橋爪門続櫓 五十間長屋 菱櫓 河北門 橋爪門続櫓 ニノ丸内堀	長:14.5/5.3/10.8/8.3/7.7/13.9/8.5/5.5  長:14.0/13.6/13.3/9.8/9.8/9.8/9.6/ 7.8/7.7/7.3/4.3/4.1/2.5/2.3  長 幅:63.7 18.8/21.4 6.2/16.7 5.6  長 幅:24.7 8.7/11.5 4.6  長 幅 厚:34.2 4.1 2.8/4.0 2.7 1.9/8.2  0.6 1.0 他  树長29.45 柄幅2.1 頭幅2.1 頭厚2.0  長24.2 幅2.7 厚2.4  長15.5 幅4.0 厚2.7  長 幅:16.0 13.4/12.8 9.3  長 幅:7.6 3.1/7.3 3.8/7.4 19.0  長 幅:23.7 7.4/20.8 8.5/23.5 8.5  長 幅 厚:5.5 6. 0.6/5.2 4.9 0.8/4.7 5.0  0.7  長19.5(树長4.7) 面径14.8  径:2.5/2.4/2.5/2.3/2.3 厚0.1  長60.4 刃長49.5 幅2.7 厚0.6  長 幅:40 2.4/4.0 2.3  長 福:40 2.4/4.0 2.3  長74.6 幅3.8 厚2.2  1辺15.0~16.0cm/15.0~16.5cm  口径10.0 器高2.4	5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5	M169·173·175~177·190·192· 196 M085·086·088·090·092·093· 095·106·109·110·112·114· 146·150 M226·242 M78~083  M053 M054 M055 M312·319 M31·33·34  M243·267·296  M323~325 M007 M018~022 M038 M039·040 M042 S054·055 P147 3004 P109·112·128·130~134·139· 140·157·171~173·177~181·
81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100 101 102	鉄釘 銅釘 鏡 目総 金具 釘隠(金沢大学資料館蔵) 金槌 ノミ 矢 敷金 (17世紀後半) 敷金 (18世紀後半) 敷金 (19世紀前半) バネ状製品 柄鏡 寛永通宝 刀 切羽 刀 鍬始刻石 吸管墨書土器 五針杵	二ノ丸内堀、五十間長屋 二ノ丸内堀、五十間長屋 二ノ丸内堀、変櫓 二ノ丸内堀 二ノ丸内堀 二ノ丸内堀 二ノ丸内堀 三ノ丸内堀 橋爪門続櫓 三ノ丸内堀 橋爪門続櫓 南爪門続櫓 本ノ丸内堀 ニノ丸内堀	長:14.5/5.3/10.8/8.3/7.7/13.9/8.5/5.5  長:14.0/13.6/13.3/9.8/9.8/9.8/9.6/ 7.8/7.7/7.3/4.3/4.1/2.5/2.3  長 幅:63.7 18.8/21.4 6.2/16.7 5.6  長 幅:24.7 8.7/11.5 4.6  長 幅 厚:34.2 4.1 2.8/4.0 2.7 1.9/8.2 0.6 1.0 他  柄長29.45 柄幅2.1 頭幅2.1 頭厚2.0  長24.2 幅2.7 厚2.4  長15.5 幅4.0 厚2.7  長 幅:16.0 13.4/12.8 9.3  長 幅:23.7 7.4/20.8 8.5/23.5 8.5  長 幅 厚:55.5 6. 0.6/5.2 4.9 0.8/4.7 5.0 0.7  長19.5(柄長4.7) 面径14.8  径:2.5/2.4/2.5/2.3/2.3 厚0.1  長60.4 刃長49.5 幅2.7 厚0.6  長 幅:4.0 2.4/4.0 2.3  長74.6 幅3.8 厚2.2 1辺15.0~16.0cm/15.0~16.5cm 口径10.0 器高2.4  長7.4 幅2.1 厚2.0  底径:7.2/12.6/6.8/8.7/11.2 他	5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5	M169·173·175~177·190·192· 196 M085·086·088·090·092·093· 095·106·109·110·112·114· 146·150 M208·211·225 M226·242 M78~083  M053 M054 M055 M312·319 M31·33·34 M243·267·296 M323~325 M007 M018~022 M038 M039·040 M042 S054·055 P147 3004 P109·112·128·130~134·139· 140·157·171~173·177~181· 183·185·187
81 82 83 84 85 86 87 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100 101 102	鉄釘 銅釘 鎹 目鍵 金具 釘隠 (金沢大学資料館蔵) 金槌 ノミ 矢 敷金 (17世紀後半) 敷金 (18世紀後半) 敷金 (19世紀前半) パネ状製品 柄鏡 寛永通宝 刀 切羽 刀 切羽 刀 数始刻石 吸符墨書土器 五鈷杵 本丸出土陶磁器	ニノ丸内堀、五十間長屋 ニノ丸内堀、五十間長屋 ニノ丸内堀、変櫓 ニノ丸内堀 エノ丸内堀 ニノ丸内堀 ニノ丸内堀 ニノ丸内堀 橋爪門続櫓 五十間長屋 菱櫓 河北門 橋爪門続櫓 「カ北門 橋爪門続櫓 ニノ丸内堀 ニノ丸内堀 ニノ丸内堀 ニノ丸内堀 ニノ丸内堀 ニノ丸内堀 ニノ丸内堀 ニノ丸内堀 エノ丸内堀 エナ間長屋 玉泉院丸 玉泉院丸	長:14.5/5.3/10.8/8.3/7.7/13.9/8.5/5.5  長:14.0/13.6/13.3/9.8/9.8/9.8/9.6/ 7.8/7.7/7.3/4.3/4.1/2.5/2.3  長 幅:63.7 18.8/21.4 6.2/16.7 5.6  長 幅:24.7 8.7/11.5 4.6  長 幅 厚:34.2 4.1 2.8/4.0 2.7 1.9/8.2 0.6 1.0 他  柄長29.45 柄幅2.1 頭幅2.1 頭厚2.0  長24.2 幅2.7 厚2.4  長15.5 幅4.0 厚2.7  長 幅:16.0 13.4/12.8 9.3  長 幅:23.7 7.4/20.8 8.5/23.5 8.5  長 幅 厚:55 6. 0.6/5.2 4.9 0.8/4.7 5.0 0.7  長19.5(柄長4.7) 面径14.8  径:2.5/2.4/2.5/2.3/2.3 厚0.1  長60.4 刃長49.5 幅2.7 厚0.6  長 幅:4.0 2.4/4.0 2.3  長74.6 幅3.8 厚2.2 1辺15.0~16.0cm/15.0~16.5cm 口径10.0 器高2.4  長7.4 幅2.1 厚2.0  底径:7.2/12.6/6.8/8.7/11.2 他	5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5	M169·173·175~177·190·192· 196 M085·086·088·090·092·093· 095·106·109·110·112·114· 146·150 M208·211·225 M226·242 M78~083  M053 M054 M055 M312·319 M31·33·34 M243·267·296 M323~325 M007 M018~022 M038 M039·040 M042 S054·055 P147 3004 P109·112·128·130~134·139· 140·157·171~173·177~181· 183·185·187 P33·34·44·45·49·52·58·65·
81 82 83 84 85 86 87 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100 101 102	鉄釘 銅釘 鏡 目総 金具 釘隠(金沢大学資料館蔵) 金槌 ノミ 矢 敷金 (17世紀後半) 敷金 (18世紀後半) 敷金 (19世紀前半) バネ状製品 柄鏡 寛永通宝 刀 切羽 刀 鍬始刻石 吸管墨書土器 五針杵	二ノ丸内堀、五十間長屋 二ノ丸内堀、五十間長屋 二ノ丸内堀、変櫓 二ノ丸内堀 二ノ丸内堀 二ノ丸内堀 二ノ丸内堀 三ノ丸内堀 橋爪門続櫓 三ノ丸内堀 橋爪門続櫓 南爪門続櫓 本ノ丸内堀 ニノ丸内堀	長:14.5/5.3/10.8/8.3/7.7/13.9/8.5/5.5  長:14.0/13.6/13.3/9.8/9.8/9.8/9.6/ 7.8/7.7/7.3/4.3/4.1/2.5/2.3  長 幅:63.7 18.8/21.4 6.2/16.7 5.6  長 幅:24.7 8.7/11.5 4.6  長 幅 厚:34.2 4.1 2.8/4.0 2.7 1.9/8.2 0.6 1.0 他  柄長29.45 柄幅2.1 頭幅2.1 頭厚2.0  長24.2 幅2.7 厚2.4  長15.5 幅4.0 厚2.7  長 幅:16.0 13.4/12.8 9.3  長 幅:23.7 7.4/20.8 8.5/23.5 8.5  長 幅 厚:55.5 6. 0.6/5.2 4.9 0.8/4.7 5.0 0.7  長19.5(柄長4.7) 面径14.8  径:2.5/2.4/2.5/2.3/2.3 厚0.1  長60.4 刃長49.5 幅2.7 厚0.6  長 幅:4.0 2.4/4.0 2.3  長74.6 幅3.8 厚2.2 1辺15.0~16.0cm/15.0~16.5cm 口径10.0 器高2.4  長7.4 幅2.1 厚2.0  底径:7.2/12.6/6.8/8.7/11.2 他	5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5	M169·173·175~177·190·192· 196 M085·086·088·090·092·093· 095·106·109·110·112·114· 146·150 M208·211·225 M226·242 M78~083  M053 M054 M055 M312·319 M31·33·34 M243·267·296 M323~325 M007 M018~022 M038 M039·040 M042 S054·055 P147 3004 P109·112·128·130~134·139· 140·157·171~173·177~181· 183·185·187
81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100 101 102 103 104	鉄釘 銅釘 鏡 目総 金具 釘隠(金沢大学資料館蔵) 金槌 ノミ 矢 敷金 (17世紀後半) 敷金 (18世紀後半) 敷金 (18世紀後半) 敷金 (19世紀前半) バネ状製品 柄鏡 寛永通宝 刀 切羽 刀 数始刻石 吸符墨書土器 五鈷杵 本丸出土陶磁器 東ノ丸附段出土陶磁器	二ノ丸内堀、五十間長屋 二ノ丸内堀、五十間長屋 二ノ丸内堀、菱櫓 二ノ丸内堀、五十間長屋、菱櫓 二ノ丸内堀 二ノ丸内堀 插八門続櫓 三ノ丸内堀 橋八門続櫓 南八門続櫓 本ノ丸内堀 ニノ丸内堀	長:14.5/5.3/10.8/8.3/7.7/13.9/8.5/5.5  長:14.0/13.6/13.3/9.8/9.8/9.8/9.6/ 7.8/7.7/7.3/4.3/4.1/2.5/2.3  長 幅:63.7 18.8/21.4 6.2/16.7 5.6  長 幅:24.7 8.7/11.5 4.6  長 幅 厚:34.2 4.1 2.8/4.0 2.7 1.9/8.2 0.6 1.0 他  柄長29.45 柄幅2.1 頭幅2.1 頭厚2.0  長24.2 幅2.7 厚2.4  長15.5 幅4.0 厚2.7  長 幅:16.0 13.4/12.8 9.3  長 幅:23.7 7.4/20.8 8.5/23.5 8.5  長 幅 厚:55 6. 0.6/5.2 4.9 0.8/4.7 5.0 0.7  長19.5(柄長4.7) 面径14.8  径:2.5/2.4/2.5/2.3/2.3 厚0.1  長60.4 刃長49.5 幅2.7 厚0.6  長 幅:4.0 2.4/4.0 2.3  長74.6 幅3.8 厚2.2 1辺15.0~16.0cm/15.0~16.5cm 口径10.0 器高2.4  長7.4 幅2.1 厚2.0  底径:7.2/12.6/6.8/8.7/11.2 他	5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5	M169·173·175~177·190·192· 196 M085·086·088·090·092·093· 095·106·109·110·112·114· 146·150 M208·211·225 M226·242 M78~083  M053 M054 M055 M312·319 M31·33·34 M243·267·296 M323~325 M007 M018~022 M038 M039·040 M042 S054·055 P147 3004 P109·112·128·130~134·139· 140·157·171~173·177~181· 183·185·187 P33·34·44·45·49·52·58·65· 80·82·83·85
81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100 101 102 103 104	鉄釘 銅釘 鎹 目鍵 金具 釘隠 (金沢大学資料館蔵) 金槌 ノミ 矢 敷金 (17世紀後半) 敷金 (18世紀後半) 敷金 (19世紀前半) パネ状製品 柄鏡 寛永通宝 刀 切羽 刀 切羽 刀 数始刻石 吸符墨書土器 五鈷杵 本丸出土陶磁器	ニノ丸内堀、五十間長屋 ニノ丸内堀、五十間長屋 ニノ丸内堀、変櫓 ニノ丸内堀 エノ丸内堀 ニノ丸内堀 ニノ丸内堀 ニノ丸内堀 橋爪門続櫓 五十間長屋 菱櫓 河北門 橋爪門続櫓 「カ北門 橋爪門続櫓 ニノ丸内堀 ニノ丸内堀 ニノ丸内堀 ニノ丸内堀 ニノ丸内堀 ニノ丸内堀 ニノ丸内堀 ニノ丸内堀 エノ丸内堀 エナ間長屋 玉泉院丸 玉泉院丸	長:14.5/5.3/10.8/8.3/7.7/13.9/8.5/5.5  長:14.0/13.6/13.3/9.8/9.8/9.8/9.6/ 7.8/7.7/7.3/4.3/4.1/2.5/2.3  長 幅:63.7 18.8/21.4 6.2/16.7 5.6  長 幅:24.7 8.7/11.5 4.6  長 幅:9:34.2 4.1 2.8/4.0 2.7 1.9/8.2 0.6 1.0 他  树長29.45 村幅2.1 頭幅2.1 頭厚2.0  長24.2 幅2.7 厚2.4  長15.5 幅4.0 厚2.7  長 幅:16.0 13.4/12.8 9.3  長 幅:7.6 3.1/7.3 3.8/7.4 19.0  長 幅:23.7 7.4/20.8 8.5/23.5 8.5  長 幅 厚:5.5 6. 0.6/5.2 4.9 0.8/4.7 5.0 0.7  長19.5(村長4.7) 面径14.8  佐2.5/2.4/2.5/2.3/2.3 厚0.1  長60.4 刃長49.5 幅2.7 厚0.6  長 幅:4.0 2.4/4.0 2.3  長74.6 幅3.8 厚2.2 1辺15.0~16.0cm/15.0~16.5cm 口径10.0 器高2.4  長7.4 幅2.1 厚2.0  底径:7.2/12.6/6.8/8.7/11.2 他 口径 底径:口径22.0/口径12.7/口径 24.4/底径12.4/底径12.8 他 口径 底径 器高: 12.0 4.6 5.8/16.1	5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5	M169·173·175~177·190·192· 196 M085·086·088·090·092·093· 095·106·109·110·112·114· 146·150 M208·211·225 M226·242 M78~083  M053 M054 M055 M312·319 M31·33·34 M243·267·296 M323~325 M007 M018~022 M038 M039·040 M042 S054·055 P147 3004 P109·112·128·130~134·139· 140·157·171~173·177~181· 183·185·187 P33·34·44·45·49·52·58·65·
81 82 83 84 85 86 87 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100 101 102 103 104 105	鉄釘 銅釘 鏡 目総 金具 釘隠(金沢大学資料館蔵) 金槌 ノミ 矢 敷金 (17世紀後半) 敷金 (18世紀後半) 敷金 (18世紀後半) 敷金 (19世紀前半) バネ状製品 柄鏡 寛永通宝 刀 切羽 刀 数始刻石 吸符墨書土器 五鈷杵 本丸出土陶磁器 東ノ丸附段出土陶磁器	二ノ丸内堀、五十間長屋 二ノ丸内堀、五十間長屋 二ノ丸内堀、菱櫓 二ノ丸内堀、五十間長屋、菱櫓 二ノ丸内堀 二ノ丸内堀 插八門続櫓 三ノ丸内堀 橋八門続櫓 南八門続櫓 本ノ丸内堀 ニノ丸内堀	長:14.5/5.3/10.8/8.3/7.7/13.9/8.5/5.5  長:14.0/13.6/13.3/9.8/9.8/9.8/9.6/ 7.8/7.7/7.3/4.3/4.1/2.5/2.3  長 幅:63.7 18.8/21.4 6.2/16.7 5.6  長 幅:24.7 8.7/11.5 4.6  長 幅:9:34.2 4.1 2.8/4.0 2.7 1.9/8.2 0.6 1.0 他  树長29.45 村幅2.1 頭幅2.1 頭厚2.0  長24.2 幅2.7 厚2.4  長15.5 幅4.0 厚2.7  長 幅:16.0 13.4/12.8 9.3  長 幅:7.6 3.1/7.3 3.8/7.4 19.0  長 幅:23.7 7.4/20.8 8.5/23.5 8.5  長 幅 厚:5.5 6. 0.6/5.2 4.9 0.8/4.7 5.0 0.7  長19.5(村長4.7) 面径14.8  径:2.5/2.4/2.5/2.3/2.3 厚0.1  長60.4 刃長49.5 幅2.7 厚0.6  長 幅:4.0 2.4/4.0 2.3  長74.6 幅3.8 厚2.2 1辺15.0~16.0cm/15.0~16.5cm 口径10.0 器高2.4  長7.4 幅2.1 厚2.0  底径:7.2/12.6/6.8/8.7/11.2 他  口径 底径: 口径22.0/口径12.7/口径 24.4/底径12.4/底径12.8 他	5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5	M169·173·175~177·190·192· 196 M085·086·088·090·092·093· 095·106·109·110·112·114· 146·150 M208·211·225 M226·242 M78~083  M053 M054 M055 M312·319 M31·33·34  M243·267·296  M323~325 M007 M018~022 M038 M039·040 M042 S054·055 P147 3004 P109·112·128·130~134·139· 140·157·171~173·177~181· 183·185·187 P33·34·44·45·49·52·58·65· 80·82·83·85 P165~168·173·178·185

N.T.	hat the	The Label to	-t-t-( )	初生書 担禁系口	
No.	遺物	出土地点	寸法 (cm) 口径 底径 器高: 6.9 3.2 4.1/12.7 9.2	報告書 掲載番号 P94・96・98~100・102~106・	
107	本丸附段出土陶磁器②	本丸附段		2	
			2.7 他	115 · 133	
		- W 555	口径 底径 器高:11.3 5.0 6.3/11.6 4.5	P100·111·112·113·115·123·	
108	河北門下層出土陶磁器	河北門	4.1/12.6 7.1 2.7/10.5 3.4 2.6/10.8 4.0	3 145 • 148 • 162 • 168 • 174 • 183 ~	
			5.5/11.1 4.0 6.3 他	185 • 188 • 192 • 219 • 238 • 240	
109	五十間長屋下層出土陶磁器	五十間長屋	底径14.8 器高23.3/口径7.8 底径4.2 器	P277·285·286·294·295·299·	
			高4.9 他	306 • 343 • 349 • 350	
_	小柄	五十間長屋	長 幅 厚:10.0 1.5 0.7/7.8 1.5 0.5	5 M044·046	
111	煙管	五十間長屋	長 幅:3.5 1.7/2.1 1.0/16.6 1.3	5 M002·005·006	
_	銅銭	五十間長屋	径:2.3/2.3/2.4/2.2 厚0.1	5 M031 • 033 • 034 • 036	
113	漆器(椀・皿)	五十間長屋	長 幅 器高:11.5 5.0 3.4/24.5 15.4 2.3	5 W001·002·003·005~007	
114	下駄	五十間長屋	長 幅 厚:21.5 8.8 3.5/21.7 9.8 2.8/	5 W026~028	
***	1 2/4	五十四人生	19.1 8.1 3.0	3 11020 020	
115	木製人形等	五十間長屋	長 幅 厚:20.0 2.0 1.5/20.3 5.4	5 W096~103	
113	/N-36/7/D-47	五十四尺庄	1.6/22.5 9.0 1.4/30.2 2.8 1.0 他	3 11070 103	
			口径 底径 器高:13.6 9.0 5.3/10.9 9.9	1237 • 1239 ~ 1241 • 1247 • 1255 •	
116	紅皿(紅猪口・小碗)、段重	玉泉院丸	3.4/7.4 2.8 3.2/4.3 1.4 1.7	171	
			口径 かえり 器高:13.0 11.8 3.7 他	1271 · 1272 · 1274 ~ 1280	
117	、 - マ - 型   側 II	T 白 164	口径2.9 底径1.7 器高2.4	10 P163	
117	ミニチュア土製品	玉泉院丸	口径4.1、かえり径4.1、器高1.95 他	30 P078·083~085	
			高5.8 幅4.2 厚4.0	10 P164	
118	土人形	玉泉院丸	幅 厚 器高:3.9 2.0 6.9/3.8 1.9 3.85	13 P204·205	
			長幅 厚:3.0 5.3 3.8/5.2 5.6 5.5 他	30 P076·077·079~082·086~090	
119	碁石状土製品	玉泉院丸	長幅:2.0 1.95/1.85 1.8/2.15 2.15	30 P091~093	
_	円盤状土製品	玉泉院丸	径:3.4/3.6/3.7/4.8/4.7/4.9 他	30 P094~107	
			口径 底径 器高: 9.7 4.3 7.1/10.6 4.3		
121	陶器 碗	玉泉院丸	6.9/9.4 4.2 6.5	10 P77·P89·115	
122	陶器 碗	玉泉院丸	口径10.3 底径3.8 器高5.8	10 P76	
-	陶器 碗	玉泉院丸	口径11.6 底径4.7 器高6.1	10 P102	
	陶器 碗	玉泉院丸	口径9.4 底径3.5 器高5.4	10 P94	
	陶器 碗	玉泉院丸	口径9.5 底径3.5 器高5.8	10 P119	
-	陶器 碗	玉泉院丸	口径10.9 底径4.4 器高5.8	10 P118	
_	土器 火鉢	玉泉院丸	口径16.8 底径13.1 器高8.9	10 P130	
121	上前 入野	上水匠儿	口径11.9 底径9.9 器高12.1	10 P15	
128	陶器 土瓶	玉泉院丸	口径11.9 底径9.9 器高12.1	13 P089	
			口径11.0 底径11.0 器高11.45	13 1089	
129	陶器 土瓶蓋	玉泉院丸		13 P066 · 123	
			3.55/口径7.5 器高2.6 口径 底径 器高: 14.3 8.8 3.0/20.8		
				2 P244 · 245 · 247 · 257 · 258	
130	磁器 大皿・皿	本丸附段	13.9 3.5 他		
			器高6.5/底径19.4/口径46.2 底径24.0 器	14 P115·118·119	
404	WAS HIM Man	L. L. Britze.	高10.6	0 7054	
131	磁器 瓶	本丸附段	口径3.6	2 P271	
132	陶器 鉢	本丸附段	口径:45.8/41.0	2 P248·249	
			底径14.2 器高14.7	14 P163	
133	餌猪口	玉泉院丸	口径 底径 器高: 6.7 3.2 3.1×3.6/	10 P12·139·152	
			6.5(半円形) 4.6 3.6/6.0 4.4 3.1		
134	本丸庭園の石造物	本丸	長幅厚:27.2 20.05 19.9/10.25 14.1	8 S001·S004	
101	1 / Shelmi < Hive ly		9.1	0,0001,0001	
135	玉泉院丸庭園の石造物	玉泉院丸	長 幅 厚:24.2 30.5 8.5/38.9 43.0	10 S13·21~23	
			25.5/48.5 26.1 25.8/32.1 44.2 19.1		
_	線刻文様のある瓦	玉泉院丸	長9.85 幅2.55 厚3.25	13 T154	
137	鏃	五十間長屋	長9.7/14.3	5 M048 • 050	
138	鋲	三ノ丸 (鉄砲所)	縦 横:2.3 0.63/3.85 0.6/1.8 1.5	20 M91·115·125	
120	리소	三ノ丸(鉄砲所)	(引金)縦4.8 横1.05 厚1.25 (座金)縦	20 M48·52·58	
139	引金	二ノ凡(欧旭州)	2.35 横1.35 厚0.14 他	20 19140 - 52 - 56	
140	用心金	三ノ丸 (鉄砲所)	縦9.8 横2.9 厚0.7	20 M18	
141	綱鋲	三ノ丸 (鉄砲所)	(環部)径1.76(鋲部)縦1.83 横0.6	20 M60	
140			縦 横 厚:7.55 0.94 0.5/5.0 1.1 0.8/2.7	20 M/7, 70 75 07 07	
142	発射装置(カラクリ)部品	三ノ丸(鉄砲所)	2.1 0.45 他	20 M67·72·75·87·97	
143	胴金	三ノ丸(鉄砲所)	縦5.4 横4.95 厚1.15	20 M33	
	雨覆	三ノ丸(鉄砲所)	縦 横 厚:8.4 1.8 0.25/6.35 1.7 0.5	20 M2·6	
	煙返し	三ノ丸(鉄砲所)	縦2.3 横1.5 厚0.4	20 M11	
	火蓋	三ノ丸(鉄砲所)	縦5.05 横1.78	20 M31	
			縦横厚:1.6 1.45 1.2/1.27 1.2 1.3/		
147	目当	三ノ丸 (鉄砲所)	1.14 1.0 0.64	20 M39·41·45	
148	筒 (銃身)	三ノ丸(鉄砲所)	1.11 1.0 0.01	20 M126	
1 10		→ / /G (\$/CHG//1/)	1	20 11120	

#### 参考文献

- (1)石川県金沢城·兼六園管理事務所石川県金沢城調査研究所2012『特別名勝兼六園 栄螺山石垣等修理工事報告書』
- (2)石川県金沢城調査研究所2008『金沢城跡埋蔵文化財確認調査報告書I』
- (3)石川県金沢城調査研究所2011『金沢城跡-河北門-』
- (4)石川県金沢城調査研究所2011『金沢城跡-二ノ丸内堀·菱櫓·五十間長屋·橋爪門続櫓I-』
- (5)石川県金沢城調査研究所2012『金沢城跡-二ノ丸内堀·菱櫓·五十間長屋·橋爪門続櫓II-』
- (6)石川県金沢城調査研究所2013『戸室石切丁場確認調査報告書II』
- (7)石川県金沢城調査研究所2014『金沢城跡-石川門付属太鼓塀-』
- (8)石川県金沢城調査研究所2014『金沢城跡埋蔵文化財確認調査報告書II』
- (9)石川県金沢城調査研究所2015『金沢城跡-橋爪門-』
- (10)石川県金沢城調査研究所2015『金沢城跡-玉泉院丸庭園I-』
- (11)石川県金沢城調査研究所2016『金沢城跡一鶴/丸第1次·新丸第1次·尾坂門·二/丸園路·数寄屋屋敷-』
- (12)石川県金沢城調査研究所2018『金沢城庭園調査報告書』
- (13)石川県金沢城調査研究所2018『金沢城跡-玉泉院丸庭園II-』
- (14)石川県金沢城調査研究所2019『金沢城跡-本丸附段・北ノ丸-』
- (15)石川県金沢城調査研究所2020『金沢城跡-いもり堀-』
- (16)石川県金沢城調査研究所2020『金沢城跡-鼠多門・鼠多門橋I-』
- (17)石川県金沢城調査研究所2021『金沢城跡--鼠多門・鼠多門橋II-』
- (18)石川県教育委員会事務局文化財課金沢城研究調査室2004『御造営方日並記』上巻
- (19)石川県教育委員会事務局文化財課金沢城研究調査室2005『御造営方日並記』下巻
- (20)石川県教育委員会事務局文化財課金沢城研究調査室2006『金沢城跡II』
- (21)石川県教育委員会1970『金沢城二ノ丸跡発掘調査概報』
- (22)石川県教育委員会・(財)石川県埋蔵文化財センター2002『金沢市金沢城跡1』
- (23)石川県教育委員会・(財)石川県埋蔵文化財センター2002『金沢市前田氏(長種系)屋敷跡』
- (24)石川県教育委員会・(財)石川県埋蔵文化財センター2003『珠洲市南黒丸遺跡・南黒丸B遺跡』
- (25)石川県教育委員会・(財)石川県埋蔵文化財センター2010『金沢市金沢城跡1』
- (26)石川県教育委員会・(財)石川県埋蔵文化財センター2012『金沢市金沢城跡2-堂形(第3・4次調査)-』
- (27)石川県教育委員会・(財)石川県埋蔵文化財センター2013『小松市八幡遺跡II』
- (28)石川県教育委員会・(公財)石川県埋蔵文化財センター2014『金沢市金沢城跡3-堂形(第5次調査)-』
- (29)石川県土木部公園緑地課・石川県金沢城調査研究所2010『金沢城跡石垣修理工事報告書-玉泉院丸南西石垣-』
- (30)石川県土木部公園緑地課·石川県金沢城調査研究所2017『金沢城跡-玉泉院丸南石垣等-』
- (31)石川県立埋蔵文化財センター1992『特別名勝兼六園(江戸町跡推定地)発掘調査報告 附 本多家上屋敷跡試掘調査報告 別
- (32)石川県立埋蔵文化財センター1996『金沢城跡車橋門発掘調査報告書』
- (33)石川県立埋蔵文化財センター1997『金沢城跡石川門前土橋(通称石川橋)発掘調査報告書Ⅰ』
- (34)石川県立埋蔵文化財センター1998『金沢城跡石川門前土橋(通称石川橋)発掘調査報告書II』
- (35)井上鋭夫1969『金沢城跡の発掘』金沢大学金沢城学術調査委員会
- (36)上野佳也1976「金沢城四十間長屋跡発掘調査概報」『日本海文化』No.3 金沢大学法文学部日本海文化研究室
- (37)金沢市(金沢市埋蔵文化財センター)2005『石川県金沢市広坂遺跡(1丁目)II(古代・中世編、測量図編2)』
- (38)金沢大学資料館・金沢大学埋蔵文化財調査センター・石川考古学研究会2021『令和3年度金沢大学資料館特別展 金沢大学と石川県の考古学ー 北陸人類学会から現在までの歩みー』
- (39) 久保智康1992 「近世後期南加賀における赤瓦の生産 『福井考古学会会誌』10
- (40)佐々木達夫1980「金沢城跡の発掘ー一九七九年ー『日本海文化』№7 金沢大学文学部日本海文化研究室
- (41)佐々木達夫1981「金沢城跡の発掘-1977年-」『金沢大学日本海域研究所報告』第13号
- (42)貞末堯司・石崎俊哉・前田清彦198「金沢城の発掘-1981-藤右エ門丸北側法面裾部発掘報告」「金沢大学日本海域研究所報告」第18号
- (43)貞末堯司・前田清彦・児玉剛1989「金沢城の発掘-1986年-黒門横北側県外部発掘調査報告」『日本海文化』No5 金沢大学文学部日本海文化研究室
- (44)新修小松市史編集委員会2001『新修小松市史 資料編3 九谷焼と小松瓦』
- (45)出越茂和2006「金沢城五十間長屋石垣鍬初に係る神具机について一金沢市波自加弥神社所蔵神具机裏書の調査一」「研究紀要 金沢城研究」第4号 石川県教育委員会事務局文化財課金沢城研究調査室
- (46)増山 仁1999「金沢城跡」『金沢市史』資料編19考古 金沢市史編さん委員会
- (47)三浦純夫・在田則子1994「金沢城本丸跡の石造遺物」「資料館だより」5 金沢大学資料館
- (48)三浦純夫1997「金沢城御宮跡出土の石造遺物」『資料館だより』9 金沢大学資料館
- (49)吉岡康暢1985「金沢城の発掘『金沢城と前田氏領内の諸城』日本城郭史研究叢書 第五巻 名著出版

金沢城史料叢書 44

石川県金沢城調査研究所設立 20 周年記念

金沢城出土品図録

# -モノからみた金沢城-

令和4年3月31日発行

編集・発行:石川県金沢城調査研究所

〒920-0918 石川県金沢市尾山町 10-5 TEL 076-223-9696 FAX 076-223-9697

https://www.pref.ishikawa.lg.jp/kyouiku/bunkazai/kanazawazyo/index.html

E-mail kncastle@pref.ishikawa.lg.jp

印刷:前田印刷株式会社



石川県金沢城調査研究所